



電話ガイド



## Cisco IP Communicator 電話ガイド Release 2.0

Text Part Number: OL-7599-01-J







<b>Cisco IP Communicator スタートアップ ガイド</b>	<b>1</b>
Cisco IP Communicator の紹介	2
ハードウェアおよびプラットフォーム要件	3
USB オーディオ デバイス用のホットフィックスのインストール	4
クイック スタート チェックリスト	5
オーディオ デバイスの取り付け	6
Cisco IP Communicator のインストールと起動	8
Cisco IP Communicator のコンピュータへのインストール	8
Cisco IP Communicator の起動	9
オーディオ調整ウィザードの使用法	10
設定作業と登録作業	12
Cisco IP Communicator のテスト	14
<b>Cisco IP Communicator の概要</b>	<b>15</b>
Cisco IP Communicator の機能	15
Cisco IP Communicator インターフェイスの使用法	16
電話スクリーンの機能	21
コール処理とナビゲーションのヒント	22
キーボード ショートカットの使用法	22
メニューの使用法	23
ウィンドウ制御ボタンの使用法	25
着信通知の使用法	26
回線とコールの違いについて	27
コールおよび回線のアイコンについて	27
オンフックとオフフック	28
コールの選択	28
コールの表示と切り替え	29

電話スクリーンの項目の選択	30
機能メニューの使用方法	30
テキストの入力と編集	31
オンライン ヘルプへのアクセス	32
機能の操作性とアベイラビリティについて	32
<b>Cisco IP Communicator を使用したコール処理</b>	<b>33</b>
基本的なコール処理	33
コールの発信	34
コールへの応答	39
コールの終了	41
保留と復帰の使用方法	42
ミュートの使用方法	42
接続コールの転送	43
コール間の切り替え	44
別の番号へのコール転送	45
高度なコール処理	46
パークされているコールの保存と取得	46
呼出音が鳴っているコールの Cisco IP Communicator へのリダイレクト	47
会議コールの使用方法	48
サポートされる会議コールのタイプ	48
標準の会議の開催と参加	49
Meet-Me 会議コールの開催または参加	51
共有回線について	52
共有回線のコールへの参加	52
<b>Cisco IP Communicator の設定のカスタマイズ</b>	<b>53</b>
設定の概要	53

コールの音量調節	54
呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ	55
電話スクリーンのカスタマイズ	56
短縮ダイヤル ボタンの設定	57
設定の表示とカスタマイズ	59
ユーザ設定	59
ネットワーク設定	61
オーディオ設定	63
オーディオ モードについて	65
ネットワーク オーディオ設定	68
詳細オーディオ設定	69
ディレクトリ設定	72
<b>ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスの使用方法</b>	<b>73</b>
ヘッドセットの使用法	74
スピーカフォンとしてのコンピュータの使用法	77
USB 受話器の使用法	78
オーディオ デバイスの取り外しと再取り付け	79
オーディオ デバイスの取得	80
<b>ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用方法</b>	<b>81</b>
ボイス メッセージへのアクセス	82
履歴およびディレクトリの使用方法	83
クイック検索機能の使用法	85
クイック検索用のパスワード情報の入力	85
<b>ユーザ オプション Web ページへのアクセス</b>	<b>87</b>
ユーザ オプション Web ページへのログイン	88
電話サービスへの登録	89

**Cisco IP Communicator のトラブルシューティング 90**

一般的な問題のトラブルシューティング 90

音質の問題 94

**索引**



# Cisco IP Communicator スタートアップガイド

---

次の項では、新しい Cisco IP Communicator の使用を開始する際に必要となる基本的な情報について説明します。

- Cisco IP Communicator の紹介 ( P. 2 )
- ハードウェアおよびプラットフォーム要件 ( P. 3 )
- クイック スタート チェックリスト ( P. 5 )
- オーディオ デバイスの取り付け ( P. 6 )
- Cisco IP Communicator のインストールと起動 ( P. 8 )
- オーディオ調整ウィザードの使用方法 ( P. 10 )
- 設定作業と登録作業 ( P. 12 )
- Cisco IP Communicator のテスト ( P. 14 )

## Cisco IP Communicator の紹介

Cisco IP Communicator は、お使いのコンピュータで Cisco IP Phone の機能をすべて使用できるデスクトップアプリケーションです。Cisco IP Communicator から、コールの発信、受信、およびその他のコール処理を行うことができます。ラップトップまたはポータブル コンピュータに Cisco IP Communicator をインストールすると、社内ネットワークに接続できる場所ならどこからでも Cisco IP Communicator (およびすべての電話サービスと設定) を使用できます。たとえば、Cisco IP Communicator を使用して、出張中にオンラインでコールを受信したり、ボイス メッセージを確認できます。また、自宅で仕事をしているときに、会社の自席宛の電話を自宅で受けることができます。

Cisco IP Communicator のインストールおよび使用を開始するには、P. 5 の「クイック スタート チェックリスト」を参照してください。

Cisco IP Communicator 機能の概要については、P. 15 の「Cisco IP Communicator の機能」を参照してください。

## ハードウェアおよびプラットフォーム要件

Cisco IP Communicator を使用するには、サウンドカードと USB オーディオ デバイスの両方または一方を備えたコンピュータが必要です。次の表に、Cisco IP Communicator を実行するコンピュータおよびオペレーティングシステムの最小要件と推奨要件を示します。より高速な CPU および追加の RAM を装備すると、Cisco IP Communicator の応答や起動が速くなります（推奨構成）。

**表 1 Cisco IP Communicator のみの場合**

要件	オペレーティングシステム	最小 CPU	最小 RAM	画面解像度
最小構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows 2000 Professional Service Pack 3.0 以降</li> <li>Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降</li> </ul>	450 MHz Pentium III または同等品	128 MB ( Win2K )  192 MB ( WinXP )	800 x 600
推奨構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows 2000 Professional Service Pack 3.0 以降</li> <li>Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降</li> </ul>	733 MHz Pentium III または同等品	256 MB	1,024 x 768

**表 2 Cisco IP Communicator を Cisco Unified Video Advantage と相互運用する場合**

要件	オペレーティングシステム	最小 CPU	最小 RAM	画面解像度
最小構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows 2000 Professional Service Pack 4.0 以降</li> <li>Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降</li> </ul>	2.5 GHz Pentium IV または同等品	256 MB	800 x 600
推奨構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows 2000 Professional Service Pack 4.0 以降</li> <li>Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降</li> </ul>	2.8 GHz Pentium IV または同等品	512 MB	1,024 x 768

上記の表以外に、Cisco IP Communicator に必要な要件は次のとおりです。

- 最小 100 MB の空きディスク領域
- 非 ISA 全二重サウンドカードあるいは USB オーディオ ヘッドセットまたは受話器
- 10/100 メガビット イーサネット ネットワーク インターフェイス カード

Cisco IP Communicator のインストールおよび使用を開始するには、P.5 の「クイック スタート チェックリスト」を参照してください。

## USB オーディオ デバイス用のホットフィックスのインストール



**注意** Cisco IP Communicator を USB オーディオ デバイスと併用する場合は、システム クラッシュを避けるため、指定された Microsoft ホットフィックスのインストールが必要になることがあります。

Cisco IP Communicator を次の両方のアイテムと併用する場合は、Microsoft Windows ホットフィックスをインストールする必要があります。

- Windows 2000 Service Pack 3 以降のリリース
- USB オーディオ デバイス

ホットフィックスを入手するには、次の Web サイトから cipc-Admin-ffr.2-0-1.zip というファイルにアクセスします。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/ip-comm>

W2KUSBHotfix.zip ファイルを解凍します。

たとえば、英語版の Cisco IP Communicator をインストールする場合は、Windows2000-KB832339-x86-ENU.EXE ファイルを実行します。

英語版以外の Cisco IP Communicator をインストールする場合は、インストールする Cisco IP Communicator のバージョンに対応したリリース ノートを参照してください。

## クイック スタート チェックリスト

Cisco IP Communicator をデスクトップにセットアップしてコールの発信を開始できるようにするには、次のチェックリストに従ってください。このチェックリストには、このユーザ ガイドで詳細情報を参照できる項も記載しています。




作業	詳細情報の参照先
1. 使用するサウンド カードおよび USB オーディオ デバイス (USB ヘッドセットまたは USB 受話器) をすべて取り付けます。	オーディオ デバイスの取り付け (P. 6)
2. Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールします。	Cisco IP Communicator のコンピュータへのインストール (P. 8)
3. Cisco IP Communicator を起動します。	Cisco IP Communicator の起動 (P. 9)
4. [オーディオ調整ウィザード] を使用して、オーディオ モードを選択し、オーディオ デバイスを調整します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オーディオ調整ウィザードの使用方法 (P. 10)</li> <li>• オーディオ モードについて (P. 65)</li> </ul>
5. システム管理者によって指示されたネットワーク設定手順または登録手順を実行します。	設定作業と登録作業 (P. 12)
6. テスト コールを発信します。	Cisco IP Communicator のテスト (P. 14)

# オーディオ デバイスの取り付け

オーディオ デバイスはいつでも取り付けることができますが、Cisco IP Communicator をインストールして起動する前に取り付けることをお勧めします。

## 使用できるオーディオ デバイス

Cisco IP Communicator では、いくつかのオーディオ デバイスを使用できます。次の表に概要を示します。Cisco IP Communicator で使用できる特定ブランドのオーディオ デバイスのリストが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

オーディオ デバイス	説明	注記
USB デバイス <ul style="list-style-type: none"><li>• USB 受話器</li><li>• USB ヘッドセット</li></ul>	USB デバイスには、デバイスドライバソフトウェアが必要です。また、このデバイスには四角いプラグが付属しています。 	デバイスの製造元の指示に従って、USB デバイスを取り付けます。新しいハードウェアの検出ウィザードが表示されたら、その指示に従います。
外付けアナログ デバイス <ul style="list-style-type: none"><li>• アナログ ヘッドセット</li><li>• 外付けスピーカまたは外付けマイクロフォン</li></ul>	アナログ オーディオ デバイスは、ソフトウェアは必要ありません。このデバイスは、コンピュータのサウンド カードの延長として機能します。 	アナログ デバイスのプラグをコンピュータのオーディオ ジャックに差し込みます。  Cisco IP Communicator は、アナログ デバイスをサウンド カードの延長として認識します。アナログ デバイスの設定を修正または表示する場合は、サウンド カードを選択します。
内蔵オーディオ デバイス <ul style="list-style-type: none"><li>• 内蔵マイクロフォン</li><li>• 内蔵スピーカ</li></ul>	これらのオーディオ デバイスはコンピュータに内蔵されており、コンピュータのサウンド カードと連携して動作します。	内蔵オーディオ デバイスは、外付けオーディオ デバイスのプラグがコンピュータのオーディオ ジャックに差し込まれていない場合にだけ動作します。外付けオーディオ デバイスのプラグがオーディオ ジャックに差し込まれている場合、音声は外付けデバイスにルーティングされます。

**(注)**

---

Cisco IP Communicator の起動後に、ドライバを必要とするオーディオ デバイス (USB 受話器、USB ヘッドセット、またはサウンド カード) を取り付けた場合、Cisco IP Communicator にそのデバイスを認識させるには、Cisco IP Communicator アプリケーションを閉じて再起動する必要があります。

---

### 次の手順

オーディオ デバイスを取り付けたら、次に Cisco IP Communicator をインストールして起動します。[オーディオ調整ウィザード]により、オーディオ デバイスを取り付けたことが認識され、オーディオ デバイスを選択して調整できるようになります。P. 8 の「Cisco IP Communicator のインストールと起動」を参照してください。

### 関連項目

- ヘッドセットの使用方法 (P. 74)
- オーディオ デバイスの取り外しと再取り付け (P. 79)

# Cisco IP Communicator のインストールと起動

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- Cisco IP Communicator のコンピュータへのインストール ( P. 8 )
- Cisco IP Communicator の起動 ( P. 9 )

## Cisco IP Communicator のコンピュータへのインストール

実行可能ファイル、またはインストール リンクはシステム管理者から提供されます。次の手順を実行して、Cisco IP Communicator ソフトウェアをコンピュータにインストールします。



**(注)** ラップトップコンピュータを使用する場合は、インストール後に初めて Cisco IP Communicator を起動するとき、ドッキングステーションに接続していないことを確認してください。

### 手順

**ステップ 1** CiscoIPCommunicatorSetup.exe またはシステム管理者から提供されたインストール リンクをダブルクリックして、このファイルを開きます。

InstallShield ウィザードが開き、インストールの準備が開始します。

**ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[ 次へ ] をクリックして InstallShield ウィザードを開始します。

**ステップ 3** 使用許諾契約をよく読み、「同意します」をクリックして、[ 次へ ] をクリックします。

**ステップ 4** [ ユーザ情報 ] ウィンドウでデータを入力し、[ 次へ ] をクリックします。他のユーザがこのコンピュータで Cisco IP Communicator を使用すると思われる場合は、[ はい ] を選択します。

**ステップ 5** [ インストールの準備完了 ] ウィンドウで、[ インストール ] をクリックします。

インストールには、数分かかる場合があります。

**ステップ 6** Cisco IP Communicator をすぐに起動する場合は、[ プログラムの起動 ] チェックボックスをクリックし、[ 終了 ] をクリックします ( 場合によっては、この時点で再起動を要求され、[ プログラムの起動 ] チェックボックスが表示されない場合もあります )。

## 次の手順

P. 9 の「Cisco IP Communicator の起動」を参照してください。

## Cisco IP Communicator の起動



**(注)** ラップトップ コンピュータを使用する場合は、インストール後に初めて Cisco IP Communicator を起動するとき、ドッキングステーションに接続していないことを確認してください。

インストールの最後の手順で [プログラムの起動] チェックボックスをクリックした場合は、Cisco IP Communicator が自動的に起動します。

手動で起動するには、[スタート] > [すべてのプログラム] > Cisco IP Communicator を選択するか、または Cisco IP Communicator のデスクトップショートカットをダブルクリックします。



Cisco IP Communicator を初めて起動すると、[オーディオ調整ウィザード] が開きます。2 回目以降の起動でも、[オーディオ調整ウィザード] を使用して以前の音量設定に戻すかどうかを確認するプロンプトが表示される場合があります。P. 10 の「オーディオ調整ウィザードの使用方法」を参照してください。

## アップデートの受け入れ

さらに、起動時に [自動アップデート] によるソフトウェア インストールを受け入れるように要求されることがあります。これを受け入れることも拒否することもできます。通常は、コンピュータ上の製品を最新のバージョンにしておくため、できるだけ早く [自動アップデート] プロンプトを受け入れる必要があります。ただし、リモート接続で Cisco IP Communicator を使用している場合は、ローカルで接続するまで [自動アップデート] の実行を延期できます (たとえば、自宅で仕事をしている場合は、オフィスに戻るまで待つことができます)。リモート接続で [自動アップデート] を完了するには、長い時間がかかる場合があります。

## 次の手順

Cisco IP Communicator をインストールして起動したら、次にオーディオ デバイスを選択して調整します。P. 10 の「オーディオ調整ウィザードの使用方法」を参照してください。

# オーディオ調整ウィザードの使用方法


[オーディオ調整ウィザード]では、取り付けたオーディオ デバイスを選択して調整する手順が表示されます。



- 選択とは、オーディオ デバイスを1つ以上のオーディオ モードまたは呼出音(あるいはその両方)に割り当てることを意味します。オーディオ モードの詳細については、P. 65 の「オーディオ モードについて」を参照してください。
- 調整とは、選択した各デバイスのスピーカとマイクロフォンの音量をテストして、必要に応じて修正することを意味します。

Cisco IP Communicator をインストール後初めて起動すると、[オーディオ調整ウィザード] が自動的に表示されます。2 回目以降の起動の際は、必要に応じてメニューから手動でオーディオ調整ウィザードにアクセスできます。次の表に、[オーディオ調整ウィザード] および他のオーディオ設定オプションの詳細を示します。

状況	操作	注記
Cisco IP Communicator をインストール後すぐに、[オーディオ調整ウィザード] を初めて使用する必要がある	[オーディオ調整ウィザード]が表示されたら、各オーディオ デバイスを調整します。  [オーディオ調整ウィザード]では、オーディオ モードに対してオーディオ デバイスを選択できます。このような選択の詳細については、P. 65 の「オーディオ モードについて」を参照してください。	デバイスの調整は、コールの音量設定の変更とは異なる作業です。各デバイスを一度だけ調整し、音質の問題が発生した場合だけ再調整することをお勧めします。

状況	操作	注記
インストール後 2 回目以降の起動で、[ オーディオ設定の確認 ] ウィンドウが表示される	次のいずれかのボタンを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 復元 ]</b>: そのオーディオ デバイスを以前の設定に戻します。</li> <li>• <b>[ 調整 ]</b>: そのデバイスを再調整します。</li> <li>• <b>[ キャンセル ]</b>: 修正した設定を保持します(たとえば、サウンドカードをミュートのままにする場合)</li> </ul> オーディオ設定が適切に機能していた場合は、 <b>[ 復元 ]</b> を選択します。	デバイスを最後に調整した後に音量を修正(またはミュート)すると、次回の起動で[ オーディオ設定の確認 ] ウィンドウが表示されます。たとえば、コンピュータのサウンドカードをミュートにした場合や、USB 受話器または USB ヘッドセットのボリューム コントロールを変更した場合です。
コールの音量を変更する	Cisco IP Communicator インターフェイスで  をクリックします。設定を保存するには、[ 保存 ] をクリックします。	この方法は、コールごとに音量設定を変更する場合に最適です。詳細については、P. 54 の「コールの音量調節」を参照してください。
音質の問題に対処するため、オーディオデバイスを再調整する	[ オーディオ調整ウィザード ] に手動でアクセスします。これを行うには、インターフェイス最上部のメニュー ボタンをクリックする、Cisco IP Communicator 上で右クリックする、または[ スタート ] > [ すべてのプログラム ] > Cisco IP Communicator > [ オーディオ調整ウィザード ] を選択します。	トラブルシューティングについては、P. 94 の「音質の問題」を参照してください。
オーディオデバイスを再調整せずに、オーディオモードの選択を変更する	これを行うには、インターフェイス最上部のメニュー ボタンをクリックするか、または Cisco IP Communicator インターフェイス上で右クリックし、[ 設定 ] > [ オーディオ ] を選択します。	オーディオ モードの選択を変更する方法の詳細については、P. 65 の「オーディオモードについて」を参照してください。



**(注)** 独自のボリューム アジャスタを備えたオーディオ デバイス(インラインのボリューム コントロールを持つヘッドセットなど)の場合は、[ オーディオ調整ウィザード ] を使用して調整する前に、デバイス本体の音量レベルを最大値に設定してください。

## 次の手順

クイック スタート チェックリストの作業を完了して、[ オーディオ調整ウィザード ] の使用を終えたら、次に Cisco IP Communicator でコールの発信を開始する前に必要となるすべての設定作業を行います。P. 12 の「設定作業と登録作業」を参照してください。

## 設定作業と登録作業

Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールし、[ オーディオ調整ウィザード ] を完了して、デスクトップに Cisco IP Communicator インターフェイスが表示されたら、コールの発信を開始する前に、必要に応じて次に示す設定作業と登録作業を 1 つまたは複数完了します。



**(注)** 次の作業は会社や電話システムによって異なるため、システム管理者の指示に従ってください。指示がない限り、これらの作業を行わないでください。

### デバイス名の選択

Cisco IP Communicator に対するデバイス名の設定方法を指定する場合は、2 つのオプションを使用できます。最初のオプションでは、Cisco IP Communicator は、ネットワーク アダプタの選択に基づいてネットワークに識別されます。このため、Cisco IP Communicator が正常に機能するには、正しいネットワーク アダプタを選択する必要があります。ネットワーク アダプタを選択するには、Cisco IP Communicator インターフェイス上で右クリックし、[ 設定 ] > [ ネットワーク ] > [ デバイス名 ] を選択して、[ ネットワークアダプタ ] ドロップダウン メニューからネットワーク アダプタを選択します。システム管理者から、どのネットワーク アダプタを選択すべきか指示されます。通常は、永続的な接続を提供する可能性が最も高いアダプタ、または装着されていない場合でも常に有効なアダプタを選択する必要があります。ワイヤレス カードは選択しないでください。



**(注)** この設定は、音声の転送ではなく、ネットワークの識別に使用されます。選択したネットワーク アダプタを削除または無効にする場合を除き、確定後にこの設定を変更する必要はありません。変更する場合は、新しいアダプタを選択する前に、システム管理者に問い合せてください。

2 つ目のオプションでは、自由形式のデバイス名を使用するように Cisco IP Communicator を設定します。このオプションを使用できるのは、Cisco Unified CallManager Release 5.0(1) 以降に接続する場合のみです。これを行うには、Cisco IP Communicator 上で右クリックするか、またはメニュー アイコンをクリックします。次に、[設定]>[ネットワーク]>[このデバイス名を使用]を選択します。デバイス名の文字列を入力します。文字列は 14 文字以下にする必要があります。また、使用可能な文字は ASCII 文字のみで、スペースは使用できません。使用するデバイス名については、システム管理者が通知する必要があります。

### デバイス名の確認

選択したネットワーク アダプタのデバイス名を表示するには、メニューにアクセスし、[設定]>[ネットワーク]>[デバイス名]を選択します。必要に応じて、デバイス名をメモしてシステム管理者に送信します。

### TFTP サーバの指定

Cisco IP Communicator インターフェイスで 1 つまたは 2 つの TFTP サーバアドレスを指定するように、システム管理者から要求されることがあります。これを行うには、メニューにアクセスし、[設定]>[ネットワーク]>[次の TFTP サーバを使用]を選択して、フィールドに TFTP アドレスを入力します。

この作業を行う必要があるかどうかは、システム管理者から指示されます。

### TAPS (内線番号自動登録システム) での登録

Cisco IP Communicator をインストールして起動した後、必要に応じて Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) を使用して自動登録します。

TAPS で登録するには、Cisco IP Communicator を使用して、システム管理者から通知された TAPS 内線番号をダイヤルし、ボイス プロンプトに従います。必要に応じて、エリア コードを含む、内線番号全体を入力します。Cisco IP Communicator に確認メッセージが表示されたら、コールを終了できます。Cisco IP Communicator が再起動します。

### 次の手順

次に、Cisco IP Communicator を使用する準備が整ったことを確認します。P. 14 の「Cisco IP Communicator のテスト」を参照してください。


## Cisco IP Communicator のテスト

P.5の「クイック スタート チェックリスト」に従っており、かつシステム管理者から要求された設定作業と登録作業を完了した場合は、Cisco IP Communicator をテストできます。内線番号が表示されて、オフフック状態にするとダイヤル トーンが聞こえることを確認します。

- 内線番号が表示されない、またはダイヤル トーンが聞こえない場合は、システム管理者に問い合わせてください。システム管理者から追加の手順を実行するように指示されることがあります。
- 内線番号が表示され、ダイヤル トーンが聞こえる場合は、テスト コールをいくつか発信し、自分の声が通話相手にどのように聞こえるかを確認します。詳細については、次の各項を参照してください。

### 音量を調節する必要がある場合

まず、Cisco IP Communicator インターフェイスで、オーディオ モードの音量を調節します。

 をクリックするか、キーボードで **Page Up** キーまたは **Page Down** キーを押します。詳細については、P.54の「コールの音量調節」を参照してください。音質に問題がある場合は、P.94の「音質の問題」を参照してください。

### リモート接続を使用している場合

リモート接続（たとえば、自宅やホテルからのVPN接続）でCisco IP Communicatorを使用している場合は、[低帯域幅のための最適化]機能を有効にします。これを行うには、メニューにアクセスし、[設定]>[オーディオ]を選択します。

低帯域幅向けに最適化した後、誰かに電話をかけて、自分の声がどのように聞こえるかを確認します。自分または通話相手の声がこもったり不自然に聞こえる場合は、コール中にオーディオ フィルタを適用します。低帯域幅が有効な場合は、オーディオ フィルタにより音質を向上させることができます。オーディオ フィルタの適用については、P.69の「詳細オーディオ設定」を参照してください。

### 次の手順

これで、新しい電話機のセットアップとテストが終了しました。次に、この電話機の機能やサービスの詳細を理解する必要があります。P.15の「Cisco IP Communicator の概要」を参照してください。

# Cisco IP Communicator の概要

---

次の項では、Cisco IP Communicator の概要について説明します。

- Cisco IP Communicator の機能 ( P. 15 )
- Cisco IP Communicator インターフェイスの使用方法 ( P. 16 )
- コール処理とナビゲーションのヒント ( P. 22 )

## Cisco IP Communicator の機能

Cisco IP Communicator の機能は従来の電話機の機能とよく似ており、コールの発信、受信、保留、番号の短縮ダイヤル、コールの転送などを行うことができます。Cisco IP Communicator は、コール処理機能を拡張およびカスタマイズできる特別な電話機能（コールパークや Meet-Me 会議など）もサポートしています。

また、コール処理機能の他に次の機能もサポートしています。

- [ オーディオ調整ウィザード ]
- [ クイック検索 ] によるディレクトリからのダイヤル
- ユーザ オプション Web ページおよび電話サービスへの簡単なアクセス
- 包括的なオンライン ヘルプ システム
- Cisco IP Communicator の外観の変更
- ドラッグアンドドロップ ダイヤル
- カットアンドペースト ダイヤル
- ポップアップ着信通知
- 英数字ダイヤル
- 新しいキーボード ショートカット
- Cisco Unified Video Advantage Release 2.0 とのビデオの相互運用性

Cisco IP Communicator のコンポーネントの概要については、P. 16 の「Cisco IP Communicator インターフェイスの使用方法」を参照してください。

# Cisco IP Communicator インターフェイスの使用法

ボタンやメニュー項目をクリックするにはマウスを使用し、文字、数字、キーボードショートカットを入力するにはコンピュータのキーボードを使用します。

Cisco IP Communicator には、スキンと呼ばれる 2 つのデスクトップ表示が用意されています。

- 図 1 に、コンパクトモードを選択した場合の Cisco IP Communicator を示します。
- 図 2 に、デフォルトモードを選択した場合の Cisco IP Communicator を示します。

表 3 に、両方のスキンが共有するボタンや他のコンポーネントを示します。

図 1 コンパクトモードを選択した場合の Cisco IP Communicator

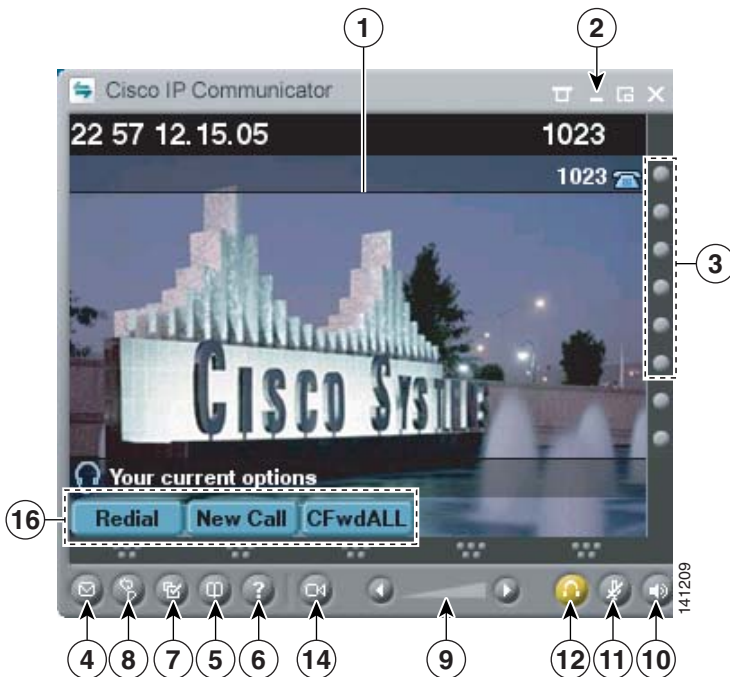


図2 デフォルト モードを選択した場合の Cisco IP Communicator



表3 ボタンおよび他のコンポーネント

1	電話スクリーン	コールの状態や機能メニューを表示、および項目をアクティブにする場合に使用します。詳細については、P. 21 の「電話スクリーンの機能」を参照してください。
2	ウィンドウ制御ボタン	メニューを表示する場合、Cisco IP Communicator インターフェイスを非表示にする場合、スキンを切り替える場合、またはアプリケーションを終了する場合に使用します。P. 32 の「機能の操作性とアベイラビリティについて」を参照してください。

表3 ボタンおよび他のコンポーネント (続き)












<p>3</p> <p>回線ボタンおよび短縮ダイヤルボタン</p> 	<p>各ボタンで回線の開閉、または番号の短縮ダイヤルを行います (これに対応するキーボードショートカットは Ctrl+1 ~ 8 です)。回線ボタンにより、回線の状態が次のように表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> • 緑、点灯：この回線のコールはアクティブです (オフフック)。</li> <li> • 緑、点滅：この回線のコールは保留状態です。</li> <li> • オレンジ、点滅：この回線で着信コールが鳴っています。</li> <li> • 赤：共有回線で、現在使用中です。</li> <li> • 色なし：この回線でコール アクティビティはありません (オンフック)。</li> </ul> <p>余分な回線ボタンを短縮ダイヤルボタンにすることができます。P. 57 の「短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。</p>
<p>4</p> <p>メッセージ ボタン</p> 	<p>サービスによって異なりますが、通常はボイス メッセージ サービスに自動ダイヤルします (これに対応するキーボード ショートカットは Ctrl+M です)。詳細については、この表の項目 16 および P. 81 の「ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用方法」を参照してください。</p>
<p>5</p> <p>ディレクトリ ボタン</p> 	<p>[ディレクトリ]メニューを開閉します。発信履歴および社内ディレクトリを表示して、そこからダイヤルする場合に使用します (これに対応するキーボード ショートカットは Ctrl+D です)。また、[クイック検索]機能 (Alt+K) を使用して、ディレクトリを検索することもできます。P. 81 の「ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用方法」を参照してください。</p>
<p>6</p> <p>ヘルプ ボタン</p> 	<p>[ヘルプ]メニューをアクティブにします (これに対応するキーボード ショートカットは Ctrl+I です)。P. 28 の「コールの選択」を参照してください。</p>
<p>7</p> <p>設定ボタン</p> 	<p>[設定]メニューを開閉します。電話スクリーンの表示および呼出音を制御する場合に使用します (これに対応するキーボード ショートカットは Ctrl+S です)。P. 53 の「Cisco IP Communicator の設定のカスタマイズ」を参照してください。</p>
<p>8</p> <p>サービス ボタン</p> 	<p>[サービス]メニューを開閉します (これに対応するキーボード ショートカットは Ctrl+R です)。P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。</p>

表3 ボタンおよび他のコンポーネント (続き)

9	<p>音量ボタン</p> 	<p>オーディオ モードの音量およびその他の設定を制御します(これに対応するキーボードショートカットは Page Up および Page Down です)。P. 53 の「Cisco IP Communicator の設定のカスタマイズ」を参照してください。<sup>1</sup></p>
10	<p>スピーカ ボタン</p> 	<p>スピーカフォン モードのオン / オフを切り替えます(これに対応するキーボードショートカットは Ctrl+P です)。P. 73 の「ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスの使用方法」を参照してください。</p>
11	<p>ミュート ボタン</p> 	<p>ミュート機能のオン / オフを切り替えます(これに対応するキーボードショートカットは Ctrl+T です)。P. 42 の「ミュートの使用方法」を参照してください。</p>
12	<p>ヘッドセット ボタン</p> 	<p>ヘッドセット モードのオン / オフを切り替えます(これに対応するキーボードショートカットは Ctrl+H です)。P. 73 の「ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスの使用方法」を参照してください。</p>
13	<p>ナビゲーション ボタン</p> 	<p>メニューのスクロールや項目の強調表示に使用しますソフトキーと組み合わせて、強調表示された項目をアクティブにすることができます。また、Cisco IP Communicator がオンフックになっているときにナビゲーション ボタンをクリックすると、発信履歴ログの電話番号にアクセスできます。</p>
14	<p>ビデオの起動ボタン</p> 	<p>Cisco Unified Video Advantage を起動します。この機能を使用するには、Cisco Unified Video Advantage Release 2.0 と Cisco IP Communicator Release 2.0 を同じ PC 上で実行している必要があります。</p>
15	<p>ダイヤルパッド</p>	<p>番号や文字の入力、およびメニュー項目の選択に使用します( オプションのスキンでは使用できません)。代わりに、コンピュータのキーボードも使用できます。</p>
16	<p>ソフトキー ボタン</p> 	<p>各ボタンが、ソフトキーをアクティブにします。ボタンではなくソフトキーのラベルをクリックしても、ソフトキーをアクティブにできます(これに対応するキーボードショートカットは F2 ~ F6 です)。P. 33 の「Cisco IP Communicator を使用したコール処理」を参照してください。</p>
17	<p>ボイス メッセージおよび着信コールのインジケータ</p>	<p>着信コールおよび新しいボイス メッセージがあることを示します。P. 81 の「ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用方法」を参照してください。</p>

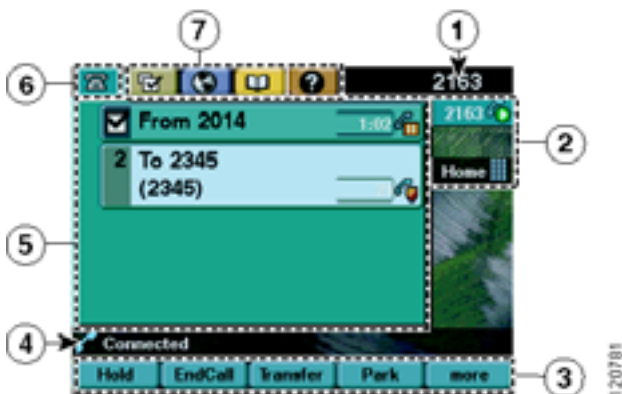
1. Release 2.0 より前のリリースでは、キーボードショートカットは Ctrl+V です。




## ヒント

- どちらかのスキンの最上部にあるメニュー アイコンをクリックするか、または Cisco IP Communicator インターフェイス上で右クリックすると、設定値の表示や設定、スキンの選択、および画面のみモードの有効化を行うことができます。P. 23 の「メニューの使用法」を参照してください。
- デフォルト モード (図 2) とコンパクト モード (図 1) では、同じボタン アイコン セットが使用されます。ただし、ボタンの形や場所はスキンによって異なる場合があります。
- ショートカットの完全なリストについては、P. 22 の「キーボード ショートカットの使用法」を参照してください。
- Cisco IP Communicator の電話スクリーンにコールや回線がどのように表示されるかについては、P. 21 の「電話スクリーンの機能」を参照してください。

## 電話スクリーンの機能

コールがアクティブで、機能メニューがいくつか開いている場合、Cisco IP Communicator の電話スクリーンは次のように表示されます。



1	プライマリ電話回線	プライマリ電話回線の電話番号（内線番号）を表示します。
2	プログラマブルボタンのアイコン	電話機のプログラマブル ボタン  の設定を示すアイコン。   電話回線アイコン：電話回線に対応しています。回線アイコンは異なる場合があります。短縮ダイヤル アイコン：有効な場合、短縮ダイヤル ボタンに対応しています。電話機サービスアイコン：有効な場合、Web ベースの電話機サービス（個人アドレス帳など）に対応しています。   機能アイコン：有効な場合、プライバシーなどの機能に対応しています。
3	ソフトキーラベル	各ラベルでソフトキーの機能を表示します。
4	ステータス行	オーディオ モードのアイコン、ステータス情報、およびプロンプトを表示します。
5	コール アクティビティ領域	強調表示されている回線のコールおよびコール情報を表示します（標準の表示）。
6	電話タブ	コール アクティビティを示します。このタブをクリックすると、必要に応じてコール アクティビティ領域に戻ります。
7	機能タブ	各タブで開いている機能メニューを示します。

### 関連項目

- Cisco IP Communicator インターフェイスの使用法（P. 16）
- コール処理とナビゲーションのヒント（P. 22）

## コール処理とナビゲーションのヒント

次の項では、コール処理および Cisco IP Communicator インターフェイスのナビゲートに役立つガイドラインについて取り上げます。

- キーボードショートカットの使用方法 (P. 22)
- メニューの使用方法 (P. 23)
- ウィンドウ制御ボタンの使用方法 (P. 25)
- 回線とコールの違いについて (P. 27)
- コールおよび回線のアイコンについて (P. 27)
- コールの選択 (P. 28)
- 機能の操作性とアベイラビリティについて (P. 32)

## キーボードショートカットの使用方法

キーボードショートカット	機能
Ctrl+Shift+A	着信コールに応答します。
Ctrl+D	[ ディレクトリ ] メニューを開閉します。
Ctrl+S	[ 設定 ] メニューを開閉します。
Ctrl+R	[ サービス ] メニューを開閉します。 <sup>1</sup>
Ctrl+M	ボイス メッセージ システムを開きます。
Ctrl+I	オンライン ヘルプ システムを開閉します。
Ctrl+H	ヘッドセット モードのオン / オフを切り替えます。
Ctrl+P	スピーカフォン モードのオン / オフを切り替えます。
Ctrl+T	ミュート機能のオン / オフを切り替えます。
Ctrl+ ( 1 ~ 8 の番号キー )	回線ボタンまたは短縮ダイヤル ボタン 1 ~ 8 を開閉します。
Ctrl+V	名前または電話番号を貼り付けます。
Alt+S	[ 設定 ] ダイアログボックスを開きます。
Alt+K	[ クイック検索 ] ディレクトリ機能を開きます。
Alt+X	Cisco IP Communicator を終了します。
Alt+F4	Cisco IP Communicator を閉じます。
Enter	コールをダイヤルします。
Esc	コールを切断します。

キーボードショートカット	機能
Page Up	現在のオーディオ モードの音量を上げます。
Page Down	現在のオーディオ モードの音量を下げます。
F2 ~ F6	ソフトキー 1 ~ 5 をアクティブにします。
/ ( NumLk 機能が有効な場合 )	# キーをアクティブにします。

1. Release 2.0 より前のリリースでは、キーボードショートカットは Ctrl+V です。

## メニューの使用法

次のメニュー項目にアクセスするには、インターフェイスの右上隅にあるメニュー アイコンをクリックするか、またはインターフェイス上の任意の位置で右クリックします。

項目	説明
スキン	インターフェイスの外観を変更する場合に使用します。Cisco IP Communicator には、デフォルトのスキン (右クリック > [スキン] > [デフォルトモード]) とコンパクトなスキン (右クリック > [スキン] > [コンパクトモード]) という 2 つのスキンが用意されています。スキンの図については、図 2 および図 1 を参照してください。
スクリーンのみ	スクリーンをみの表示のオン / オフを切り替えます。スクリーンをみの表示で Cisco IP Communicator を使用する場合は、キーボードショートカットが特に役立ちます。P. 22 の「キーボードショートカットの使用法」を参照してください。
常に手前	この機能のオン / オフを切り替えます。この機能を有効にすると、他のアプリケーションがアクティブな場合でも、デスクトップに Cisco IP Communicator インターフェイスが表示されたままになります (インターフェイスを最小化することもできます)。P. 32 の「機能の操作性とアベイラビリティについて」を参照してください。
オーディオ調整ウィザード	オーディオ デバイスの選択および調整に役立つツール [オーディオ調整ウィザード] を起動します。P. 10 の「オーディオ調整ウィザードの使用法」および P. 90 の「Cisco IP Communicator のトラブルシューティング」を参照してください。

項目	説明
貼り付け	任意の Windows プログラムから番号をコピーして、ダイアルボックスに貼り付けてから、[ <b>ダイアル</b> ] をクリックするか、または <b>Enter</b> キーを押すことで、コールを発信できます（この機能のキーボードショートカットは Ctrl+V です）。Cisco IP Communicator は、番号に適切なダイアル規則をすべて適用し、自動的にダイアルします。
クイック検索	[ <b>クイック検索</b> ] ダイアログボックスを開きます（このダイアログボックスを開くキーボードショートカットは Alt+K です）。[ <b>クイック検索</b> ] では、1 つの検索コマンドで 1 つ以上のディレクトリを検索できます。P. 85 の「クイック検索機能の使用方法」を参照してください。
Cisco ユーザオプション	Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション Web ページを開きます。この Web ページで、機能、設定値、および IP 電話サービス（短縮ダイアルボタンなど）を設定できます。このメニュー オプションは、[ <b>ユーザ設定</b> ] ウィンドウのユーザ名フィールドとパスワードフィールドに情報を入力するまで、無効のままになります。P. 57 の「短縮ダイアルボタンの設定」および P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。
設定	[ <b>設定</b> ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスには、[ <b>ユーザ</b> ] [ <b>ネットワーク</b> ] [ <b>オーディオ</b> ] および [ <b>ディレクトリ</b> ] というウィンドウがあります。P. 59 の「設定の表示とカスタマイズ」を参照してください。（[ <b>設定</b> ] にアクセスするキーボードショートカットは Alt+S です）
ヘルプ	オンライン ヘルプ版の『Cisco IP Communicator ユーザ ガイド』へのリンクを提供します。
Cisco IP Communicator について	Cisco IP Communicator ソフトウェアのバージョン情報を表示します。
終了	Cisco IP Communicator インターフェイスを終了します。

## ウィンドウ制御ボタンの使用方法

目的	操作
メニューにアクセスする	次のいずれか1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インターフェイスの右上隅にあるメニュー ボタンをクリックします。</li><li>• インターフェイス上の任意の位置で右クリックします。</li></ul>
インターフェイスを最小化する	次のいずれか1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インターフェイスの右上隅にある最小化ボタンをクリックします。</li><li>• Cisco IP Communicator のタスクバー ボタンを1回または複数回クリックします。</li></ul>
モードを切り替える	次のいずれか1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インターフェイスの右上隅にあるモードボタンをクリックします。</li><li>• メニューから [ スキン ] を選択します。</li></ul>
インターフェイスを非表示にする	システムトレイのアイコンを右クリックし、[ 隠す ] を選択します。この操作によりタスクバーから Cisco IP Communicator のアイコンが消えますが、アプリケーションが閉じるわけではありません。
インターフェイスを復旧させる	次のいずれか1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• システムトレイのアイコンをダブルクリックします。</li><li>• タスクバーのボタンアイコンをクリックします。</li></ul>
終了する	次のいずれか1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インターフェイスの右上隅にある [ 閉じる ] アイコンをクリックします。</li><li>• メニューから [ 終了 ] を選択します。</li><li>• システムトレイのアイコンを右クリックし、[ 終了 ] を選択します。</li></ul>

### ヒント

- Cisco IP Communicator インターフェイスが非表示または最小化の状態の時に新しいコールを受信すると、着信通知ウィンドウがポップアップします。[ 常に手前 ] 機能が有効の場合は、インターフェイスが自動的に復旧し、デスクトップの前面に表示されます。
- 他のアプリケーションがアクティブな場合でも、デスクトップに Cisco IP Communicator インターフェイスを前面に表示しておくには、メニューから [ 常に手前 ] を選択します ([ 常に手前 ] 機能を選択している場合でも、インターフェイスを最小化できます)。

## 着信通知の使用方法

目的	操作
コールに応答する	<ul style="list-style-type: none"><li>ポップアップ ボックスの任意の位置をクリックします (ミュートアイコンを除く)。</li></ul>
呼出音をミュートにする	<ul style="list-style-type: none"><li>ポップアップ ボックス上のミュート アイコンをクリックします。</li></ul>
着信通知を隠す	<ul style="list-style-type: none"><li>[設定]&gt;[ユーザ]に移動し、[着信通知を隠す] チェックボックスをオンにします。</li></ul>




### ヒント

着信通知ポップアップ ボックスで呼出音をミュートにした場合は、以降のすべての着信コールで呼出音がミュートにならないよう、忘れずにミュートを無効にする必要があります。







## 回線とコールの違いについて

回線とコールを混同しないために、次の説明を参照してください。

- 回線：回線は、他人が自分へのコールに使用できる電話番号（または内線番号）にそれぞれ対応しています。Cisco IP Communicator では、設定に応じて 1 ~ 8 回線をサポートできます。自分の回線数を確認するには、電話スクリーンの右側を見ます。回線の数、電話番号および電話回線アイコン  の数と同じです。
- コール：各回線では、複数のコールをサポートできます。デフォルトでは、Cisco IP Communicator は 1 本の回線につき 4 つの接続コールをサポートしますが、システム管理者は必要に応じてこの数を調整できます。アクティブとなり得るコールは常に 1 つに限定されるので、他のコールはすべて自動的に保留状態になります。





## コールおよび回線のアイコンについて

Cisco IP Communicator には、コールおよび回線の状態（オンフック、保留中、呼び出し中、接続中など）の判断に役立つアイコンが表示されます。

アイコン	コールまたは回線の状態	説明
	オンフック回線	この回線のコール アクティビティはありません。オンフック( プレダイヤル) でダイヤルしている場合は、オフフックにするまでは進行中のコールになりません。
	オフフック回線	電話番号のダイヤル中または発信コールの呼出音が鳴っている状態です。ダイヤルのオプションについては、P. 34 の「コールの発信」を参照してください。
	接続コール	通話相手に接続されている状態です。
	呼び出し中のコール	いずれかの回線でコールの呼出音が鳴っています。詳細については、P. 39 の「コールへの応答」を参照してください。
	コールの保留	このコールが保留されています。詳細については、P. 42 の「保留と復帰の使用法」を参照してください。
	リモートで使用中	共有回線の別の電話機に、接続コールがあります。詳細については、P. 52 の「共有回線について」を参照してください。

## オンフックとオフフック

Cisco IP Communicator がオンフックかオフフックかによって、Cisco IP Communicator の作業や操作手順が異なることがあります。

- オンフック：アクティブなコールはなく、アクティブなダイヤル トーンも聞こえません。Cisco IP Communicator には、オンフック ダイヤル（プレダイヤル）、つまり電話番号を入力または選択してからコールをアクティブにできる機能が備わっています。Cisco IP Communicator がオンフックの場合、各電話番号の横にこのアイコン  が表示されます。
- オフフック：スピーカフォンがアクティブです。あるいは、他の方法を使用して、ダイヤル トーンを鳴らしている、または着信コールに応答しています。電話機がオフフックの場合、コールまたは回線の状態に応じて、、、または  のいずれかのアイコンが表示されます。P. 27 の「コールおよび回線のアイコンについて」を参照してください。






## コールの選択

Cisco IP Communicator の機能の多くは、その機能の対象となるコールが選択されていることを前提にしています。たとえば、保留中のコールが 4 あるうち、2 コールだけを会議コールに参加させるとします。このような場合は、会議に追加するコールを選択してから、機能を有効にします。

目的	操作
コールを強調表示する	マウスを使用して、コール リスト内の任意のコールをクリックします。コールがより明るい背景に対して強調表示されます。
コールを選択する	接続コールまたは保留状態のコールを強調表示し、[ 選択 ] をクリックします。選択されたコールの横に、 <input checked="" type="checkbox"/> が表示されます。
選択したコールを確認する	ナビゲーション ボタンをクリックして、コールのリストをスクロールします。選択されたコールは <input checked="" type="checkbox"/> で示され、コールのリストでまとめて表示されます。

## コールの表示と切り替え

次に示すヒントは、1本または複数の回線でコールを切り替えるときに役立ちます。切り替え先のコールが自動的に強調表示されない場合は、電話スクリーン上のコール表示をクリックします。

目的	操作
同じ回線のコールを切り替える	切り替え先のコールを強調表示し、[復帰]をクリックします。別のコールが自動的に保留状態になります。
接続コールから切り替えて、呼出音が鳴っているコールに応答する	[応答]または  (点滅しているオレンジのボタン)をクリックします。この操作により、最初のコールの保留が自動的に行われます。
異なる回線のコールを切り替える	切り替え先の回線の  (点滅している緑のボタン)をクリックします。回線で保留になっているコールが1つの場合、コールは自動的に復帰します。回線で保留になっているコールが複数ある場合、必要に応じて特定のコールを強調表示して、[復帰]をクリックします。
特定の回線におけるすべてのコールを表示する	 をクリックしてから、すぐに回線ボタンをクリックします。この操作によりコールの詳細が表示されますが、コールの状態は影響を受けません。そのため、ある回線で通話しながら別の回線で保留中のコールを表示する場合に便利です。
回線のアクティビティの概要を表示する (回線ごとに1つのコール)	強調表示された回線の  をクリックします (回線は、関連付けられているコールが電話機のスクリーンに表示されると強調表示されます)。この操作により、電話機がコールの概要モードに切り替わり、回線ごとに1つのコールが表示されます。このコールは、アクティブなコール、または通話時間の最も長い保留中のコール (すべてのコールが保留中の場合) のいずれかです。  標準の表示に戻るには、  をクリックしてから、すぐに回線ボタンをクリックします。






### ヒント

- アクティブとなり得るコールは1つに限定されるので、他のコールは自動的に保留状態になります。
- 同じ回線に複数のコールがある場合は、優先順位が最も高く、通話時間の最も長いコールがコールのリストの先頭に表示されます。
- 同じタイプのコールは、コールのリストでまとめて表示されます。たとえば、相互に通話したコールは先頭付近に、選択されたコールは次に、まだ応答していないコールは末尾にまとめて表示されます。

## 電話スクリーンの項目の選択

電話スクリーンの項目の選択方法	操作
クリックする	マウスを使用して、電話スクリーンの項目をクリックします。電話スクリーンで電話番号をクリックすると、Cisco IP Communicator でその番号がダイヤルされます。
項目番号を指定する	ダイヤルパッドで該当する番号をクリックします。たとえば、メニューの4番目の項目を選択するには、4をクリックします。
項目までスクロールする	ナビゲーション ボタンをクリックするか、またはキーボードの矢印キーを使用して、リストをスクロールし、項目を強調表示します。対応するソフトキー（[選択]や[ダイヤル]など）をクリックして、操作を終了します。

## 機能メニューの使用方法







目的	操作
機能メニューを開閉する	次の機能ボタンをクリックします。  メッセージ  サービス  ヘルプ  ディレクトリ  設定
リストまたはメニューをスクロールする	ナビゲーション ボタンをクリックします。
機能メニューの1つ前のレベルに戻る	[終了]をクリックします。このとき、メニューの最上位レベルで[終了]をクリックすると、メニューが閉じます。
開いている機能メニューを切り替える	電話スクリーンで機能タブをクリックします。機能メニューごとに、対応するタブがあります。タブは機能メニューが開いているときに表示されます。

## テキストの入力と編集

目的	操作
電話スクリーンで文字を入力する	コール機能をクリックして強調表示し、キーボードを使用して文字や数字を入力します。
入力した文字を削除、またはカーソルの位置を移動する	文字や数字を 1 つ削除するには、キーボードの Back Space キーを使用するか、電話スクリーンの [ << ] または [ 削除 ] をクリックします。カーソルを右に移動するには、マウスを使用するか、または電話スクリーンの [ >> ] をクリックします。

# オンライン ヘルプへのアクセス

Cisco IP Communicator には、包括的なオンライン ヘルプ システムが備わっています。ヘルプ トピックは電話スクリーンに表示されます。次の表に詳細を示します。

目的	操作
メイン メニューを表示する	<p>Cisco IP Communicator の  をクリックし、メニューが表示されるまで数秒待ちます。すでにヘルプがアクティブな場合は、[メイン] をクリックします。</p> <p>メイン メニューには、次の項目が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Cisco IP Communicator について : Cisco IP Communicator に関する詳細な説明</li><li>• 操作方法 : Cisco IP Communicator の一般的なタスクに関する手順や情報</li><li>• コール機能 : コール機能に関する説明や手順</li><li>• ヘルプ : ヘルプの使用やアクセスに関するヒント</li></ul>
ボタンまたはソフトキーについて	<p> をクリックしてからすぐにボタンまたはソフトキーをクリックします。</p>
メニュー項目について	<p> をクリックしてからすぐに電話スクリーンのメニュー項目をクリックします。</p> <p>または、メニュー項目を選択して  を素早く 2 回クリックします。</p>
ヘルプの使用方法について	<p> をクリックします。数秒待ってから  をもう一度クリックするか、またはメイン メニューから [ヘルプ] を選択します。</p>
ユーザ ガイドにアクセスする	<p>[メニュー] &gt; [ヘルプ] をクリックするか、またはアプリケーション上で右クリックして [ヘルプ] を選択します。</p>

## 機能の操作性とアベイラビリティについて

Cisco IP Communicator の操作方法および利用可能な機能は、社内で使用されるコール処理エージェント、および社内の電話機サポート チームによる電話機システムの設定内容によって異なります。そのため、このユーザ ガイドで説明する機能の一部が利用できない場合や、電話システム上で異なる動作をする場合があります。機能の操作方法またはアベイラビリティについて確認する場合は、社内のサポート デスクまたはシステム管理者にお問い合わせください。

# Cisco IP Communicator を使用した コール処理

---

次の項では、Cisco IP Communicator を使用してコールを処理する方法について説明します。

- 基本的なコール処理 (P. 33)
- 高度なコール処理 (P. 46)

## 基本的なコール処理

この項では、コールの発信、応答、転送など、基本的なコール処理作業について説明します。ほとんどの電話システムでは、これらの作業に必要な機能を標準で利用できます。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- コールの発信 (P. 34)
- コールへの応答 (P. 39)
- コールの終了 (P. 41)
- 保留と復帰の使用方法 (P. 42)
- ミュートの使用方法 (P. 42)
- 接続コールの転送 (P. 43)
- コール間の切り替え (P. 44)
- 別の番号へのコール転送 (P. 45)






### ヒント








受話器、スピーカフォン、またはヘッドセットを使用して、コールを発信、受信、および終了する方法については、P. 81 の「ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用方法」を参照してください。





---






## コールの発信



コールを発信するには、番号のダイヤル前またはダイヤル後に、いくつかのオプションのいずれかを使用してオフフックにします。

目的	操作
プレダイヤル(最初のダイヤルトーンを聞かずにオンフックでダイヤル)	<p>次のいずれか1つを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 電話番号を入力します。自動ダイヤル機能がポップアップして、発信履歴ログから一致する電話番号が表示される場合があります。</li><li>• ナビゲーションボタンをクリックして、発信履歴ログに含まれる電話番号を表示します。</li></ul> <p>次に、電話スクリーンに表示された電話番号をクリックしてダイヤルします。または、次のいずれかの操作を実行してオフフックにし、強調表示された電話番号をダイヤルします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>•  または  をクリックします。</li><li>• <b>[ダイヤル]</b> をクリックするか、またはキーボードの <b>Enter</b> キーを押します。</li><li>•  (回線ボタン) をクリックします。</li><li>• キーボードの <b>Enter</b> キーを押します。</li></ul> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 任意の Windows プログラムから番号をドラッグし、Cisco IP Communicator インターフェイス上の任意の位置にドロップしてから、<b>[ダイヤル]</b> をクリックするか、またはキーボードの <b>Enter</b> キーを押します。</li><li>• vCard をドラッグして、Cisco IP Communicator インターフェイス上の任意の位置にドロップします。vCard に複数の番号が含まれている場合は、ポップアップ ウィンドウで目的の番号を選択してから、<b>[ダイヤル]</b> をクリックするか、またはキーボードの <b>Enter</b> キーを押します。</li></ul> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 任意のソースから番号をコピーし、<b>[メニュー]&gt;[貼り付け]</b> をクリックします。番号が自動的に入力されます。<b>[ダイヤル]</b> をクリックするか、またはキーボードの <b>Enter</b> キーを押します。また、<b>Ctrl+V</b> キーボードショートカットを使用して、電話番号を貼り付けることもできます。</li></ul>

目的	操作
オフフックで(ダイヤルトーンを鳴らした後に)ダイヤルする	【発信】、  、  、または  (回線ボタン) をクリックし、番号を入力します。
最後にダイヤルした電話番号にリダイヤルする	【リダイヤル】をクリックします。デフォルトでは、プライマリ回線がリダイヤルに使用されます。ただし、セカンダリ回線を開いてから【リダイヤル】をクリックしてもかまいません。回線を開くには、  をクリックします。
短縮ダイヤルを使用する	次のいずれか1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• オフフックにする前または後に  (短縮ダイヤル ボタン) をクリックします。</li> <li>• オンフックの状態では短縮ダイヤルのインデックス番号(キーパッドの1~99)を入力し、【短縮】をクリックします。</li> </ul>
別のコールがアクティブなときにコールを発信する(別の回線を使用)	新しい回線の  をクリックします。最初の回線のコールが自動的に保留状態になります。
別のコールがアクティブなときにコールを発信する(同じ回線を使用)	【保留】をクリックしてから、【発信】をクリックします。これで、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行えます。または、アクティブなコールで通話を続行しながら、履歴またはディレクトリからのダイヤルを準備できます(詳細については、この表の次の2行を参照してください)。
履歴からダイヤルする	 > 【不在履歴】 【着信履歴】 または 【発信履歴】 を選択します。ダイヤルするには、リストの番号をクリックするかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。 <p>別のコールがアクティブなときに履歴からダイヤルする場合は、コールのレコードまでスクロールして【ダイヤル】をクリックするか、またはキーボードの Enter キーを押します。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【保留】: 最初のコールを保留にして、2番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• 【転送】: 最初の通話相手を2番目の通話相手に転送します(操作を完了するには、【転送】をもう一度クリックします)。</li> <li>• 【会議】: すべての通話相手との会議コールを作成します(操作を完了するには、【会議】をクリックします)。</li> <li>• 【終了】: 最初のコールを切断して、2番目のコールをダイヤルします。</li> </ul>

目的	操作
電話機の社内ディレクトリからダイヤルする	<p> &gt; [ シャナイディレクトリ ] を選択します ( 名前は異なる場合があります )。キーボードを使用して文字を入力してから、[ 検索 ] をクリックします。ダイヤルするには、リストの番号をクリックするかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>コールがアクティブなときにディレクトリからダイヤルする場合は、リストまでスクロールして [ ダイヤル ] をクリックするか、またはキーボードの Enter キーを押します。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 保留 ]: 最初のコールを保留にして、2 番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [ 転送 ]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します ( 操作を完了するには、[ 転送 ] をもう一度クリックします )。</li> <li>• [ 会議 ]: すべての通話相手との会議コールを作成します ( 操作を完了するには、[ 会議 ] をクリックします )。</li> <li>• [ 終了 ]: 最初のコールを切断して、2 番目のコールをダイヤルします。</li> </ul>
社内ディレクトリの Web ページからダイヤルする	<p>Cisco WebDialer の機能を使用します。Web ブラウザを起動して、社内ディレクトリのページへ移動します。ディレクトリの電話番号をクリックします。コールを発信するには、[ ダイヤル ] をクリックするか、またはキーボードの Enter キーを押します。コールを終了するには [ コールの終了 ] をクリックします。詳細については、『Web での Cisco Unified IP Phone のカスタマイズ』を参照してください。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a></p>
ヘッドセット モードを使用してダイヤルする	<p>次のいずれか 1 つを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  が点灯していない場合は、番号のダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤル前あるいは後にクリックします。</li> <li>•  が点灯している場合は、[ 発信 ]、[ リダイヤル ]、短縮ダイヤル ボタン、または  ( 回線ボタン ) をクリックします。必要に応じて、電話番号を入力し、[ ダイヤル ] をクリックするか、またはキーボードの Enter キーを押します。詳細については、P. 74 の「ヘッドセットの使用方法」を参照してください。</li> </ul>

目的	操作
スピーカフォン モードを使用してダイヤルする	<p>まず、アナログ ヘッドセットのプラグがコンピュータのオーディオ ジャックに差し込まれていないことを確認します。[ 発信 ] または  をクリックし、電話番号を入力します。あるいは、別の方法でコールを発信し、 をクリックしてスピーカフォンモードに切り替えます。</p> <p>番号をダイヤルする操作の多くで、スピーカフォン モードが自動的に開始されます。詳細については、P. 77 の「スピーカフォンとしてのコンピュータの使用法」を参照してください。</p>
受話器モードを使用してダイヤルする	番号のダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤル前あるいは後に、受話器を取り上げるか有効にします。P. 78 の「USB 受話器の使用法」を参照してください。
セカンダリ回線でダイヤルする	使用する回線の  をクリックします。
Personal Address Book (PAB; 個人アドレス帳) エントリからダイヤルする	<p> &gt; PAB service ( 正確な名前は異なる場合があります ) を選択します ( 設定によっては、[ クイック検索 ] も使用できます。P. 85 の「クイック検索機能の使用法」を参照してください )。</p> <p>PAB サービスを使用するには、サービスに登録する必要があります。詳細については、P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。</p>
ファースト ダイヤル コードを使用してダイヤルする	<p> &gt; Fast Dials ( 正確な名前は異なる場合があります ) を選択します。リストからダイヤルするには、その項目をクリックするか、またはその項目までスクロールしてオフフックにします。</p> <p>ファースト ダイヤル サービスに登録する方法については、P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。</p>
課金コードまたはトラッキングコードを使用して発信する	特定のトーンが鳴ったら、電話番号をダイヤルして Client Matter Code ( CMC ) または Forced Authorization Code ( FAC ) を入力します。CMC コードまたは FAC コードを入力する必要があるかどうか、および詳細な手順は、システム管理者により指示されます。
別のコールがアクティブなとき、コールを発信する	[ 保留 ] をクリックします。次に、[ 発信 ] をクリックします。その後、番号をダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルします。保留中のコールに戻るには、[ 復帰 ] をクリックします。
プライオリティ ( Precedence ) コールを発信する	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。

目的	操作
Cisco エクステンション モビリティ プロファイルを使用してコールを発信する	<p>エクステンション モビリティ (EM) にログインしていることを確認します。 &gt; EM Service (名前は異なる場合があります) を選択してから、キーパッドを使用してログイン情報を入力します。電話機を共有している場合、EM にログインしてから特定の機能にアクセスするか、コールを完了する必要があります。</p> <p>EM は特別な非デフォルトの機能のため、システム管理者に電話機および電話機のユーザへの割り当てを依頼します。『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』を参照してください。このガイドは次の URL で入手できます。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a></p>
Cisco Unified Video Advantage を使用してビデオ コールを発信する	<p>電話スクリーン ディスプレイに、アイコン  が表示されているか確認します。</p> <p>アイコンが表示されている場合、Cisco IP Communicator でのビデオの使用および Cisco Unified Video Advantage Release 2.0(これより前のリリースは Cisco IP Communicator) のサポートが可能で、詳細についてはシステム管理者にお問い合わせください。また、『Cisco Unified Video Advantage User Guide』を参照してください。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a></p>
話し中または呼び出し中の内線が応対可能になったときに通知を受信する	<p>その番号に電話をかけ、ビジー音または呼出音が鳴っている間に <b>[オリカエシ]</b> をクリックします。電話を切断します。内線が応対可能になると、電話機にメッセージが表示され、呼出音が鳴ります。(この番号へのコールバックは自動的に行われません。コールを発信する必要があります)。コールバックは特別な機能なので、システム管理者に設定を依頼します。通話相手がコール転送を有効にしている場合、コールバックは失敗します。</p>

## ヒント







- いずれかの発信履歴の番号にプレフィックスを追加するには、その番号までスクロールし、**[編集]** をクリックします。
- ダイヤル トーンを鳴らさずにダイヤルする場合は、電話番号の先頭に \* または # を使用できません。これらの記号を使用する必要がある場合は、オフフックにしてダイヤル トーンを鳴らしてからダイヤルします。

## 関連項目

- コールへの応答 (P. 39)
- コールの終了 (P. 41)

## コールへの応答

コールに応答するには、オフフックにします。次の表に詳細を示します。

目的	操作
ヘッドセット モードで応答する	<p> が点灯していない場合は、クリックします。</p> <p> がすでに点灯している場合は、<b>[ 応答 ]</b> または  (点滅している回線ボタン) をクリックします。</p> <p>詳細については、P. 74 の「ヘッドセットの使用方法」を参照してください。</p>
スピーカフォン モードで応答する	<p>、<b>[ 応答 ]</b>、または  をクリックします。P. 77 の「スピーカフォンとしてのコンピュータの使用方法」を参照してください。</p>
受話器モードで応答する	<p>受話器を取り上げます (または有効にします)。P. 77 の「スピーカフォンとしてのコンピュータの使用方法」を参照してください。</p>
着信通知を使用して応答する	<p>呼び出し中の電話アイコン、または発信者 ID 情報をクリックします。</p> <p>コールがアクティブなときに着信する新しいコールの着信通知ポップアップ ウィンドウでミュート アイコンをクリックすると、呼出音がミュートになり、ポップアップ ウィンドウが非表示になります。アプリケーション インターフェイスに戻って、ミュートになっているコールの詳細を確認し、以降のすべての着信コールに対してミュートを無効にする必要があります。</p>
接続コールから切り替えて、呼出音が鳴っているコールに応答する	<p><b>[ 応答 ]</b> または  をクリックします。新しいコールへの応答と、最初のコールの保留が自動的に行われます。詳細については、P. 42 の「保留と復帰の使用方法」を参照してください。</p>



目的	操作
呼出音が 1 ~ 2 回鳴ると自動的に着信コールが接続されるように Cisco IP Communicator を設定する	1 つまたは複数の回線に自動応答機能を設定するよう、システム管理者に依頼します。スピーカフォン モードまたはヘッドセット モードのいずれかで自動応答を使用できます。詳細については、P. 73 の「ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスの使用方法」を参照してください。
別の電話機（会議室の電話機など）で保留中のコールを取得、または他の人に取得してもらう	コールパークを使用します。P. 46 の「パークされているコールの保存と取得」を参照してください。
別の電話機で呼出音が鳴っているコールに、自分の回線を使用して応答する	コールピックを使用します。P. 47 の「呼出音が鳴っているコールの Cisco IP Communicator へのリダイレクト」を参照してください。
プライオリティ コールに応答する	現在のコールを切断して [ 応答 ] をクリックします。
着信コールをボイス メッセージ システムに直接送信する	[ 即転送 ] をクリックします。着信コールがボイス メッセージ グルーピングに自動転送されます。

## 関連項目

- 保留と復帰の使用方法（P. 42）
- 接続コールの転送（P. 43）
- コール間の切り替え（P. 44）

## コールの終了

コールを終了するには、電話を切断します。次の表に詳細を示します。

目的	操作
受話器モードを使用しているときに電話を切断する	受話器を置く、[ 終了 ] をクリックする、または Esc キーを押します。P. 78 の「USB 受話器の使用方法」を参照してください。
ヘッドセット モードを使用しているときに電話を切断する	 が点灯している場合は、クリックします。 ヘッドセット モードをアクティブにしておく場合は、[ 終了 ] をクリックするか、Esc キーを押して、このボタンを点灯した状態にします。P. 74 の「ヘッドセットの使用方法」を参照してください。
スピーカフォン モードを使用しているときに電話を切断する	 または [ 終了 ] をクリックするか、Esc キーを押します。P. 77 の「スピーカフォンとしてのコンピュータの使用方法」を参照してください。
同じ回線上で 1 つのコールを切断し、もう 1 つのコールを保持する	[ 終了 ] をクリックするか、または Esc キーを押します。必要に応じて、先に [ 復帰 ] をクリックし、コールの保留を解除します。



### ヒント



ヘッドセットで自動応答を使用する場合は、ヘッドセット モードをアクティブにする必要があります（まず、自動応答の設定をシステム管理者に依頼する必要があります）。ヘッドセットを使用するが、自動応答を使用しない場合でも、ヘッドセット モードをアクティブにする場合があります。詳細については、P. 80 の「オーディオ デバイスの取得」を参照してください。

### 関連項目

- コールの発信 (P. 34)
- コールへの応答 (P. 39)
- 接続コールの転送 (P. 43)

## 保留と復帰の使用方法

アクティブにできるコールは常に1つだけです。接続されている他のコールはすべて保留状態となります。保留中のコールに対して続行、終了、転送、およびその他の処理を行うことはできません。



目的	操作
コールを保留にする	保留にするコールが選択されていることを確認し、[保留]をクリックします。
現在の回線にあるコールの保留を解除する	該当するコールが強調表示されていることを確認し、[復帰]をクリックします。
別の回線にあるコールの保留を解除する	 (点滅している回線ボタン) をクリックします。この回線で保留になっているコールが1つの場合、コールは自動的に復帰します。保留になっているコールが複数ある場合は、該当するコールが強調表示されていることを確認し、[復帰]をクリックします。保留状態のコールは、保留アイコン  で示されます。

### ヒント

- 保留機能を使用すると、通常、音楽やビープ音が鳴ります。そのため、会議コールを保留にしないでください。
- 1つの回線上に複数のコールが存在する場合は、アクティブなコールが必ず画面の一番上に表示され、保留中のコールはその下に表示されます。

## ミュートの使用方法

ミュートを使用すると、ヘッドセット、スピーカフォン、マイクロフォンなどのオーディオデバイスの音声入力が無効になります。ミュートが有効の場合は、通話相手の声は聞こえますが、通話相手にこちらの声は聞こえません。

目的	操作
ミュートをオンにする	 をクリックします。
ミュートをオフにする	 をクリックします。

**(注)**

オーディオ デバイスまたはコンピュータがミュートの状態で Cisco IP Communicator を起動すると、[オーディオ設定の確認] ウィンドウが表示され、オーディオ設定を調整、キャンセル、または元に戻すかどうかを確認するメッセージが表示されます。オーディオ設定が適切に機能していた場合は、[復元] を選択します。オーディオ設定を表示または変更する場合は、[調整] を選択します。デバイスをミュートにしておく場合は、[キャンセル] を選択します。

## 接続コールの転送

接続コールは転送によってリダイレクトされます。転送先とは、コールの転送先となる番号です。

目的	操作
転送相手と通話せずにコールを転送する	コールの接続中に [転送] をクリックし、転送先の番号を入力します。コールの呼出音が聞こえたら、再び [転送] をクリックします。
コールを転送する前に転送相手と話す (打診転送)	コールの接続中に [転送] をクリックし、転送先の番号を入力します。転送相手が応答するまで待ちます。転送相手がコールの転送を許可したら、再び [転送] をクリックします。転送相手がコールを拒否した場合は、[復帰] をクリックして元のコールに戻ります。
2つの現在のコールを相互に転送する (直接転送)	その回線における任意のコールを強調表示し、[選択] をクリックします。2番目のコールに対しても同じ処理を行います。選択したコールの1つが強調表示されている状態で [D 転送] をクリックします (必要に応じて [次へ] をクリックして、[D 転送] を表示します)。2つのコールが相互に接続され、自分のコールは終了されます。  発信者との通信を継続する場合は、代わりに [参加] を使用して会議を作成します。詳細については、P. 48 の「会議コールの使用方法」を参照してください。
ボイス メッセージ システムにコールを送信する	[即転送] をクリックします。コールがボイス メッセージ グレーディングに自動転送されます。アクティブ、呼出中、または保留中であるコールで即転送を使用できます。

## ヒント

- オンフック転送が有効な場合は、そのまま切断、または[転送]をクリックしてから切断できます。
- オンフック転送が Cisco IP Communicator で無効になっている場合、[転送]をクリックしないで切断すると、転送の動作がキャンセルされ、転送する通話相手が保留状態になります。
- [転送]を使用して保留状態のコールをリダイレクトすることはできません。転送前にコールの保留を解除するには、[復帰]をクリックします。

## コール間の切り替え

1つまたは複数の回線上で接続されているコール間の切り替えを行うことができます。切り替え先のコールが自動的に選択(強調表示)されない場合は、電話スクリーン上のコール表示をクリックします。

目的	操作
同じ回線上の接続されているコール間で切り替える	切り替え先のコールを選択し、[復帰]をクリックします。
別の回線上の接続されているコール間で切り替える	切り替え先の回線(およびコール)の適切な●(点滅している回線ボタン)をクリックします。必要に応じて、コールを選択し、[復帰]をクリックします。
接続コールから切り替えて、呼出音が鳴っているコールに应答する	[应答]または●(点滅している回線ボタン)をクリックします。この操作によって、新しいコールに应答でき、最初のコールが自動的に保留になります。
着信通知ポップアップ ウィンドウを使用して着信コールを切り替える	着信コールに対する着信通知ポップアップ ウィンドウ上で任意の位置をクリックします(呼出音のミュート アイコンを除く)。クリックすると、アクティブ コールが保留になり、着信コールに应答できるようになります。
アクティブなコールの概要を表示する	コールがアクティブである間に●をクリックし、メインの背景スクリーンに戻ります。この操作によって、そのアクティブなコールの情報が非表示になり、各回線上のすべてのアクティブなコールの概要が表示されます。元の表示に戻るには、再び●をクリックします。

## ヒント


- アクティブにできるコールは常に1つだけです。接続されている他のコールは自動的に保留になります。
- 1つの回線上に複数のコールが存在する場合は、アクティブなコールが必ずスクリーンの一番上に表示されます。保留中のコールはその下に表示されます。

## 別の番号へのコール転送

不在転送を使用すると、着信コールを Cisco IP Communicator から別の番号にリダイレクトできます。



**(注)** 不在転送の転送先の番号は、自席からダイヤルする場合と同じように入力します。たとえば、必要に応じて 9 などの外線番号やエリア コードを入力します。

目的	操作
プライマリ回線上のコール転送を設定する	<b>[不在]</b> をクリックし、転送先の電話番号を入力します。
プライマリ回線上のコール転送をキャンセルする	<b>[不在]</b> をクリックします。
プライマリ回線上でコール転送が有効であることを確認する	プライマリの電話番号の上にアイコン  が表示されていることを確認します。また、電話スクリーンの下部付近にあるステータス テキストに、コール転送の転送先番号が表示されていることも確認します。
任意の回線のコール転送を設定またはキャンセルする	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイス リストから Cisco IP Communicator を選択して、メイン メニューから <b>[すべてのコールを別の番号に転送]</b> を選択します。Cisco IP Communicator の回線ごとにコール転送を設定またはキャンセルできます。ログインの手順については、P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。  コール転送がプライマリ回線以外で有効になっている場合、Cisco IP Communicator にはコール転送の状態が表示されません。その代わりとして、ユーザ オプション ページで設定を確認する必要があります。

### ヒント

- 従来のアナログ電話機または別の IP Phone にコールを転送できます。ただし、システム管理者が、コール転送機能を社内の番号だけに制限している場合があります。
- この機能は、回線ごとに設定する必要があります。コール転送が有効ではない回線にコールが着信すると、通常通り呼出音が鳴ります。

## 関連項目

- コールへの応答 (P. 39)
- 接続コールの転送 (P. 43)
- 高度なコール処理 (P. 46)

## 高度なコール処理

高度なコール処理作業には、特別な（非標準）機能が必要です。コール処理のニーズや作業環境に応じてシステム管理者が設定することによって、Cisco IP Communicator でこのような機能を使用できるようになります。デフォルトでは、このような機能にアクセスできません。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- パークされているコールの保存と取得 (P. 46)
- 呼出音が鳴っているコールの Cisco IP Communicator へのリダイレクト (P. 47)
- 会議コールの使用法 (P. 48)
- 共有回線について (P. 52)
- 共有回線のコールへの参加 (P. 52)

## パークされているコールの保存と取得

コールをパークすると、コールを保存して、そのコールを自分または他のユーザが Cisco Unified CallManager システム内の別の電話機（たとえば、同僚のデスクや会議室の電話機）で取得できます。コールパークは特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。

目的	操作
コールパークを使用してアクティブなコールを保存する	コール中に、[パーク]をクリックします（必要に応じて、[次へ]ソフトキーを先にクリックします）。Cisco IP Communicator にコールが保存されます。電話スクリーンに表示されるコールパーク番号をメモし、電話を切断します。
パークされたコールを取得する	ネットワーク上の任意の Cisco IP Communicator または Cisco Unified IP Phone からコールパーク番号を入力し、コールに接続します。



**(注)** パークされたコールを取得できる時間は制限されています。制限時間を超えると、コールは元の宛先に戻されます。制限時間については、システム管理者に問い合せてください。

#### 関連項目

- 基本的なコール処理 ( P. 33 )
- 保留と復帰の使用方法 ( P. 42 )
- 接続コールの転送 ( P. 43 )

## 呼出音が鳴っているコールの Cisco IP Communicator へのリダイレクト

コール ピックを使用して、同僚の電話機で呼出音が鳴っているコールを Cisco IP Communicator にリダイレクトし、そのコールに応答できます。コール ピックは特別な機能のため、コール処理のニーズや作業環境に応じてシステム管理者に設定を依頼します。たとえば、コール処理の責任を同僚と共有している場合に、この機能を使用できます。

目的	操作
グループ内の別の内線で呼出音が鳴っているコールに応答する	● ( 利用可能な回線ボタン ) をクリックし、[ <b>ピック</b> ] をクリックします。自分の回線で呼出音が鳴ります。
グループ外の別の内線で呼出音が鳴っているコールに応答する	● ( 利用可能な回線ボタン ) をクリックし、[ <b>G ピック</b> ] をクリックします。システム管理者から通知されたコール グループ ピックのコード番号を入力します。自分の回線で呼出音が鳴ります。

#### 関連項目

- 接続コールの転送 ( P. 43 )

## 会議コールの使用方法

Cisco IP Communicator では、1 台の電話機の会話に 3 名以上の人々を参加させて、会議コールを作成できます。

### サポートされる会議コールのタイプ

会議コールには、標準の会議と Meet-Me 会議の 2 種類があります。

#### 標準の会議コール

標準（または「Ad Hoc」）の会議コールでは、会議の開催者が参加者にコールして会議に追加する必要があります。Cisco IP Communicator を使用すると、必要性和 Cisco IP Communicator の設定に応じて、次に示す方法で標準の会議コールを作成できます。

- **[ 会議 ]**: このソフトキーは、参加者それぞれにコールをかけることによって、標準の会議を開催するときに使用します。標準の会議コールは、ほとんどの電話機で利用可能なデフォルトの機能です。
- **[ 参加 ]**: このソフトキーは、すでに 1 つの回線にある複数のコールの間で、標準の会議コールを開催するときに使用します。
- **[ C 割込 ]**: このソフトキーは、共有回線の既存のコールに自分を追加して、そのコールを標準の会議コールに切り替えるときに使用します。これは共有回線だけで利用可能なオプション機能のため、システム管理者に設定を依頼する必要があります。詳細については、P. 52 の「共有回線について」を参照してください。

手順の詳細については、P. 49 の「標準の会議の開催と参加」を参照してください。

#### Meet-Me 会議コール

Meet-Me 会議では、会議の開催者が参加者にコールするまで待機するのではなく、参加者が会議番号を直接コールすることで会議に参加できます。

Meet-Me 会議を開催するには、Cisco IP Communicator の [ ミートミー ] ソフトキーをクリックし、システム管理者から提供された Meet-Me 電話番号をダイヤルします。

Meet-Me 会議に参加するには、指定の時間に Meet-Me 電話番号をダイヤルします。会議の開催者がダイヤルする前に会議の参加者が会議にコールすると、その参加者にはビジー音が聞こえます。会議の開催者がダイヤルインすると、Meet-Me 会議が開催され、開催者が切断しても会議を継続できます。

Meet-Me 会議は特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼する必要があります。

## 標準の会議の開催と参加

標準の会議では、1つのコールに3名以上のユーザが参加できます。次の表に詳細を示します。

目的	操作
参加者にコールを発信して標準の会議コールを開催する	コールの接続中に[会議]をクリックし、通話相手を会議に追加します(必要に応じて[次へ]ソフトキーをクリックして、[会議]を表示します)。会議の参加者の電話番号を入力します。コールが接続され、会議の参加者と話した後、再び[会議]をクリックし、この通話者を会議に追加します。この手順を繰り返して、参加者を追加していきます。
現在の発信者を標準の会議の参加者として追加する	1つの回線に2つ以上のコールがあるとき、その回線で任意のコールをスクロールして強調表示し、[選択]をクリックします。会議に追加するすべてのコールについて、それぞれ同じ処理を行います。選択したコールのいずれかで、[参加]をクリックします(必要に応じて[次へ]ソフトキーをクリックして、[参加]を表示します)。アクティブなコールが選択され、会議に自動的に追加されます。
標準の会議に参加する	呼出音が鳴ったら電話機に応答します。標準の会議コールに参加する場合、特別な操作は何も必要ありません。
共有回線のコールに割り込み(自分を追加)して、そのコールを標準の会議コールに切り替える	共有回線でコール(リモートで使用中)を強調表示し、[C 割込]をクリックします(必要に応じて[次へ]ソフトキーをクリックして、[C 割込]を表示します)。コールの他の参加者に対して、割り込み音が鳴ります。詳細については、P. 52の「共有回線について」を参照してください。
会議の参加者のリストを表示する	アクティブな会議を強調表示し、[参加者]をクリックします。会議に参加した順序に従って、参加者がリストに表示されます。最後に追加された参加者がリストの先頭になります。
会議の参加者のリストを更新する	会議の参加者のリストを表示している状態で、[更新]をクリックします。
会議の開催者を確認する	会議のリストを表示している状態で、リストの末尾までスクロールして、会議の開催者(名前の横にアスタリスク(*)の付いた人物)を検索します。

目的	操作
会議に最後に追加された参加者を削除する	会議の参加者のリストで、先頭にある参加者の名前を強調表示し、[削除]をクリックします。最後の参加者は常にリストの先頭に表示されます。会議の参加者のリストを表示していない場合は、[ドロップ]をクリックします。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
会議の任意の参加者を削除する	参加者の名前を強調表示し、[削除]をクリックします。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
標準の会議への参加を終了する	<p>切断するか、または[終了]をクリックします。会議コールの開催者ではない場合、切断しても他の参加者の接続は中断されません。</p> <p>会議コールの開催者の場合、切断すると会議が終了する場合があります（システム管理者が Cisco IP Communicator に設定した内容によって異なります）。会議が終了しないようにするには、会議を別の参加者に転送してから切断します。その後、その参加者は会議の「仮想管理者」としての役目をします。仮想管理者は参加者を追加または削除できません。ただし、会議は開催されたときの参加者で継続されます。</p>

## ヒント

- コールを標準の会議コールに追加する前に、それらのコールが同じ回線上にある必要があります。コールが異なる回線上にある場合は、[会議]または[参加]を使用する前に、それらのコールを1つの回線に転送します。
- [参加]を使用しようとしたとき、「参加者情報がありません」というエラーメッセージが表示された場合は、アクティブなコールのほかに少なくとも1つのコールを選択していることを確認してください（アクティブなコールは自動的に選択されます）。
- Cisco IP Communicator の設定内容によっては、会議を作成した後で切断すると、その会議が終了する場合があります。詳細については、上の表で最後の行を参照してください。

## Meet-Me 会議コールの開催または参加

Meet-Me 会議では、会議の開催者が参加者にコールするまで待機するのではなく、参加者が会議番号を直接コールすることで会議に参加できます。詳細については、次の表を参照してください。

目的	操作
Meet-Me 会議を開設する	<p>[ 発信 ] をクリックするか、またはオフフックにします。次に、[ ミートミー ] をクリックして、Meet-Me 会議番号をダイヤルします(有効な番号のリストについては、システム管理者にお問い合わせください)。</p> <p>参加者がダイヤルインできるように、会議番号を必ず参加者に通知してください。開催者がダイヤルインする前に参加者が会議番号をコールすると、その参加者にはビジー音が聞こえます。</p>
Meet-Me 会議に参加する	会議の開催者から提供された Meet-Me 会議番号をダイヤルします。会議の開催者がダイヤルインした後に限り、会議に接続されます。
Meet-Me 会議を終了する	切断するか、または [ 終了 ] をクリックします。



**(注)** この項で説明している機能は、ほとんどの電話システムで利用できる標準の会議コール機能です。Meet-Me 会議コールにもアクセスできる場合があります。Meet-Me 会議コールの設定は、システム管理者に依頼する必要があります。

### 関連項目

- コールの発信 ( P. 34 )
- 別の番号へのコール転送 ( P. 45 )

## 共有回線について

システム管理者によって「共有」回線が割り当てられていることがあります。通常、共有回線には次の2種類の用途があります。

- 共有回線を1人で複数の電話機に割り当てる場合：たとえば、内線番号 23456 の共有回線が Cisco IP Communicator と自席の電話機に適用されるとします。この場合、内線番号 23456 への着信コールにより、Cisco IP Communicator と自席の電話機の呼出音が鳴り、どちらの電話機でもコールに応答できます。
- 複数のユーザが1つの回線を共有する場合：たとえば、マネージャがアシスタントと回線および内線番号を共有しているとします。その内線への着信コールにより、マネージャとアシスタントの両方の電話機の呼出音が鳴ります。アシスタントがコールに応答した場合、割り込みと呼ばれる共有回線機能を使用して、接続されているコールに参加できます（割り込みの詳細については、P. 52 の「共有回線のコールへの参加」を参照してください）。


共有回線を使用できるかどうかは、システム管理者から通知されます。割り込みなどの共有回線機能は、標準の非共有回線には適用されません。

## 共有回線のコールへの参加

共有回線を使用する場合、割り込みを使用して、開始済みの会話に参加できます。割り込みを使用すると、他の通話者にピープ音が聞こえ、自分が参加することが通知されます。電話を切断すると、残りの通話者には切断音が聞こえ、元のコールが続行します。割り込みは、共有回線だけに適用されます。

目的	操作
共有回線上で進行中のコールに参加する	電話スクリーンでコールを選択し、[ <b>割り込み</b> ] をクリックします（必要に応じて、[ <b>次へ</b> ] ソフトキーを先にクリックします）。
会議への割り込みを終了する	電話を切断します。

## ヒント

- 割り込んだコールが保留、転送、または会議コールに変わると、そのコールから切断されます。
- 割り込みをかけたコールで通話しているときに、2つ目の回線に応答することはできません。
- メインの背景スクリーンに戻るには、コールがアクティブである間に  をクリックします。すべてのアクティブなコールの概要が表示されます。

## 関連項目

- 基本的なコール処理（P. 33）
- 共有回線について（P. 52）

# Cisco IP Communicator の設定のカスタマイズ



---

この項では、次のトピックについて取り上げます。



- 設定の概要 (P. 53)
- コールの音量調節 (P. 54)
- 呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ (P. 55)
- 電話スクリーンのカスタマイズ (P. 56)
- 短縮ダイヤル ボタンの設定 (P. 57)
- 設定の表示とカスタマイズ (P. 59)

## 設定の概要

Cisco IP Communicator の設定について、次の情報を参考にしてください。

- ほとんどの設定には、メニューから **[設定]** を選択してアクセスできます。メニューにアクセスするには、ウィンドウ制御ボタンバーのメニュー アイコンをクリックするか、またはインターフェイス上の任意の位置で右クリックします。P. 59 の「設定の表示とカスタマイズ」を参照してください。
- 呼出音と背景イメージの設定には、 > **[ユーザ設定]** からアクセスできます。P. 55 の「呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ」を参照してください。
- ほとんどの設定を IP Communicator で行えますが、一部の設定についてはユーザ オプション Web ページからオンラインでアクセスする必要があります。詳細については、P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。
-  が反応しない場合、システム管理者が電話機でこのボタンを無効に設定している可能性があります。詳細については、システム管理者に問い合せてください。

## コールの音量調節


目的	操作
コール中の音量レベルを調節する	<p>コール中またはダイヤル トーンを鳴らした後に、 をクリックするか、キーボードで <b>Page Up</b> キーまたは <b>Page Down</b> キーを押します。変更後の音量を現在アクティブなオーディオ モードのデフォルト レベルとして保存するには、<b>[保存]</b> をクリックします。</p> <p>コンピュータのボリューム コントロールまたはオーディオ デバイスで利用できるボリューム コントロールを使用して、音量レベルを調節することもできます(この方法の詳細については、次のヒントを参照してください)。</p>
呼出音の音量レベルを調節する	<p>Cisco IP Communicator がオンフック状態のとき(コールもダイヤル トーンもアクティブではないとき)に  をクリックします。設定した呼出音の音量が自動的に保存されます。</p>

### ヒント

- 現在アクティブなオーディオ モードの音量だけを調節できます。たとえば、スピーカフォン モードの使用中に音量を上げても、ヘッドセット モードの音量には影響しません。
- 音量を調節した後その変更を保存しないと、次回そのオーディオ モードを使用するときに、音量が前回保存したレベルに戻ります。
- 選択したオーディオ デバイスで直接音量を調節(たとえば、コンピュータのボリューム コントロールを調節)すると、次回 Cisco IP Communicator を起動するときに **[オーディオ設定の確認]** ウィンドウが表示されることがあります。P. 10 の「オーディオ調整ウィザードの使用方法」を参照してください。

## 呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ

着信コールまたは新しいボイスメール メッセージの存在を Cisco IP Communicator で示す方法を、回線ごとにカスタマイズできます。呼出音や他のインジケータをカスタマイズすると、複数の回線を簡単に区別できます。たとえば、回線 1 の着信コールに対して鳥の鳴き声、回線 2 の着信コールに対してドラムビートを選択できます。


目的	操作
呼出音を変更する	 > [ ユーザ設定 ] > [ 呼出音 ] を選択し、電話回線またはデフォルトの呼出音設定を選択します。呼出音の種類を選択し、そのサンプルを再生します。目的の呼出音を選択したら、[ 選択 ] および [ 保存 ] をクリックします。呼出音をデフォルト設定に戻すには、[ デフォルト ] をクリックします。
呼出音のパターン(点滅のみ、一度だけ鳴らす、ピープ音のみなど)を変更する	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [ 電話の呼び出し音設定を変更 ] を選択します。P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。
ボイス メッセージ インジケータの動作を変更する	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [ 電話のメッセージ受信のランプポリシーを変更 ] を選択します。通常、デフォルトのポリシーに従って、新しいボイス メッセージを受信するとインジケータは「常時点灯」となります。  メッセージ ウェイティング インジケータの位置に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>デフォルト モード (右クリック &gt; [ スキン ] &gt; [ デフォルト モード ]) を使用している場合、インジケータはインターフェイスの左側にある細長いランプです。</li><li>コンパクト モード (右クリック &gt; [ スキン ] &gt; [ コンパクト モード ]) を使用している場合、インジケータは回線ボタンの横の点滅する封筒アイコンです。</li></ul>

### 関連項目

- コールの音量調節 (P. 54)
- 電話スクリーンのカスタマイズ (P. 56)

# 電話スクリーンのカスタマイズ

電話スクリーンで使用する言語と背景イメージを変更できます。

目的	操作
背景イメージを変更する	 > [ ユーザ設定 ] > [ 背景イメージ ] を選択します。背景の表示を確認する場合は、目的の画像の左にあるボタンをクリックし、[ プレビュー ] をクリックします。選択メニューに戻るには、[ 終了 ] をクリックします。選択した画像を使用する場合は [ 保存 ] をクリックします。[ キャンセル ] をクリックすると、前回保存したときの設定に戻ります。
電話スクリーンの言語を変更する	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [ この電話のロケールを変更 ] を選択します。

## 関連項目

- 呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ ( P. 55 )
- ユーザ オプション Web ページへのログイン ( P. 88 )

## 短縮ダイヤル ボタンの設定

短縮ダイヤル機能を使用すると、ボタンをクリックするか、またはインデックス コードを入力することにより、コールを発信できます。

電話機に短縮ダイヤルを設定するには、次のいずれかの方法を実行します。

- 短縮ダイヤルをボタンに割り当てる：IP Communicator の利用可能なプログラマブル ボタン（回線機能、またはサービス ボタンとしてまだ設定されていない）に、短縮ダイヤル番号を割り当てることができます。
- 短縮ダイヤルをインデックス コードに割り当てる：電話番号を完全にダイヤルしなくても、固定短縮ダイヤル機能を使用して、割り当てられたインデックス番号（1 ~ 99）を入力できます。

次の表に示すように、いずれのタイプの短縮ダイヤル機能も ユーザ オプション Web ページで設定します。ユーザ オプション Web ページの詳細については、P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。

目的	操作
短縮ダイヤル番号を電話機のボタンに追加する	<p>ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから <b>[短縮ダイヤルの追加または更新]</b> を選択します。</p> <p><b>[電話の短縮ダイヤル設定]</b> セクションで、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。自席からダイヤルする場合とまったく同じように、電話番号を入力します。たとえば、必要に応じて 9 などの外線番号やエリア コードを入力します。</p> <p>入力したラベルは、電話スクリーンの短縮ダイヤル ボタンの横に表示されます。</p>
固定短縮ダイヤル機能で使用する短縮ダイヤル番号を追加する	<p>ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから <b>[短縮ダイヤルの追加または更新]</b> を選択します。</p> <p><b>[電話機のボタンに割り当てられていない短縮ダイヤル設定]</b> のセクションで、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように、電話番号を入力します。たとえば、必要に応じて 9 などの外線番号やエリア コードを入力します。</p>
短縮ダイヤル番号を削除する	短縮ダイヤルのいずれかの Web ページから、電話番号とラベルを削除します。

## ヒント

- 短縮ダイヤル機能を使用してコールを開始する方法については、P. 34 の「コールの発信」を参照してください。
- システム管理者は Cisco IP Communicator に短縮ダイヤル ボタンを割り当てることができます。また、個人設定できる短縮ダイヤル ボタンの数を制限することもできます。

## 関連項目

- 基本的なコール処理 (P. 33)
- ユーザ オプション Web ページへのログイン (P. 88)

## 設定の表示とカスタマイズ

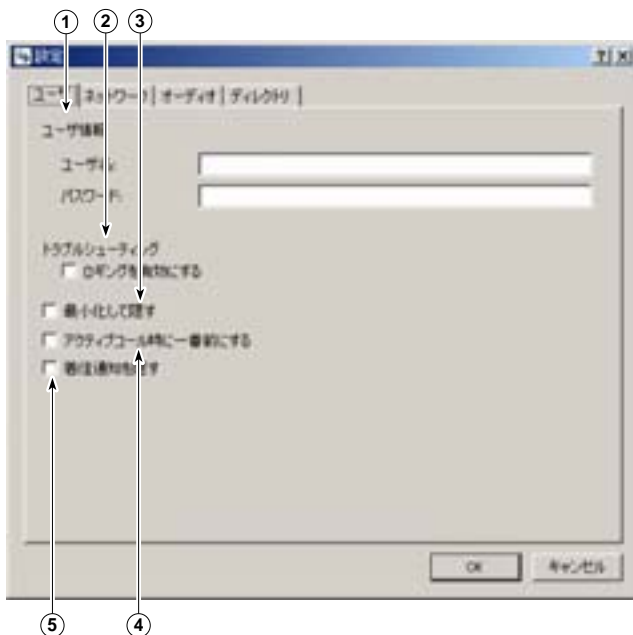
ほとんどの Cisco IP Communicator の設定には、[ 設定 ] ダイアログボックスのウィンドウからアクセスできます。[ 設定 ] にアクセスするには、Alt+S キーボード ショートカットを入力、メニュー ボタンをクリック、または Cisco IP Communicator 上で右クリックして [ 設定 ] を選択します。

次のトピックでは、[ 設定 ] ダイアログボックスのウィンドウについて説明します。

- ユーザ設定 ( P. 59 )
- ネットワーク設定 ( P. 61 )
- オーディオ設定 ( P. 63 )
- ディレクトリ設定 ( P. 72 )

### ユーザ設定

ユーザの設定ウィンドウにアクセスするには、Alt+S > [ ユーザ ] メニュー > [ 設定 ] > [ ユーザ ] または右クリック > [ 設定 ] > [ ユーザ ] を選択します。



#	項目	説明	関連情報の参照先
1	ユーザ情報領域	<p>Cisco Unified CallManager ユーザ名とパスワードを入力して、次の機能にアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ オプション Web ページおよび電話サービス</li> <li>個人アドレス帳（クイック検索機能から）</li> </ul> <p>Cisco Unified CallManager ユーザ名とパスワードが分からない場合は、システム管理者に問い合せてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイック検索機能の使用方法（P. 85）</li> <li>ユーザ オプション Web ページへのログイン（P. 88）</li> </ul>
2	[ ログインを有効にする ] チェックボックス	<p>有効にすると、システム管理者がトラブルシューティングのために詳細な Cisco IP Communicator ログを取得できるようになります。</p> <p>システム管理者からこの設定を有効にするように要求されることがあります。</p>	Cisco IP Communicator のトラブルシューティング（P. 90）
3	最小化して隠す	<p>この機能が有効のときに、ユーザがアプリケーションを最小化した場合、Cisco IP Communicator はツールバー ボタンとして表示されず、システム アイコン トレイに表示されません。アプリケーションを元に戻すには、システム トレイ内のアイコンをダブルクリックします。</p>	コールへの応答（P. 39）
4	アクティブコール時に一番前にする	<p>この機能が有効の場合、着信コールを受信すると、アプリケーションがその他すべてのアプリケーションの前面に表示されません。無効の場合、着信コールを受信しても、アプリケーションは一番前には表示されません。着信コールのインジケータは、呼出音と着信通知ポップアップ ウィンドウのみとなります。</p>	コールへの応答（P. 39）
5	着信通知を隠す	<p>この機能が有効の場合、コールを受信しても、着信通知はポップアップされません。</p>	コールへの応答（P. 39）

## 関連項目

- 設定の概要 ( P. 53 )
- ネットワーク設定 ( P. 61 )
- オーディオ設定 ( P. 63 )
- ディレクトリ設定 ( P. 72 )

## ネットワーク設定

ネットワークの設定ウィンドウにアクセスするには、**Alt+S > [ ネットワーク ]**、または**右クリック > [ 設定 ] > [ ネットワーク ]**を選択します。



#	項目	説明	関連情報の参照先
1	ネットワークアダプタを使用して、デバイス名を生成	<p>インストール直後に確定するこの設定によって、Cisco IP Communicator がネットワークに識別されます。この設定は、音声の転送には使用されません。そのため、選択したネットワーク アダプタを削除または無効にする場合を除き、確定後にこの設定を変更する必要はありません。変更する場合は、新しいアダプタを選択する前に、システム管理者に問い合せてください。</p> <p>複数のアダプタがあり、Cisco IP Communicator のインストール直後に1つのアダプタを選択するよう要求された場合は、永続的な接続を提供する可能性の最も高いアダプタ、または常に有効であるアダプタを選択します（装着されていない場合も同様）。システム管理者から、どのアダプタを選択すべきか指示されます。</p>	設定作業と登録作業 ( P. 12 )
2	このデバイス名を使用	このオプションを使用すると、ユーザは、Cisco IP Communicator をネットワークに識別させるために使用する自由形式のデバイス名を入力することもできます。このデバイス名は、ユーザの設定済みデバイス名と一致する必要があります。入力するデバイス名については、システム管理者から通知される場合があります。	設定作業と登録作業 ( P. 12 )
3	TFTP サーバ領域	TFTP サーバを指定、またはデフォルトの TFTP サーバに戻す場合に使用します。この設定を変更する必要があるかどうかは、システム管理者から指示されます。	設定作業と登録作業 ( P. 12 )



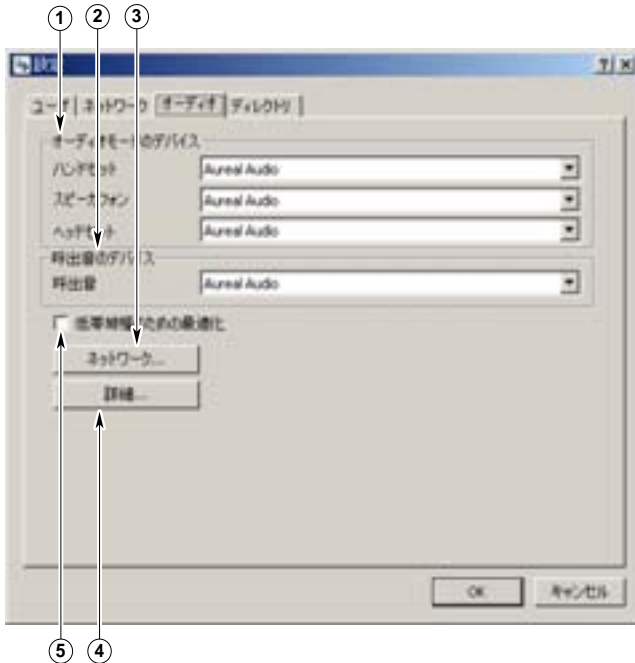
(注) 上の図は、ネットワーク設定の一例です。

### 関連項目

- 設定の概要 ( P. 53 )
- オーディオ設定 ( P. 63 )
- ディレクトリ設定 ( P. 72 )

## オーディオ設定

オーディオの設定ウィンドウにアクセスするには、Alt+S > [オーディオ] メニュー > [設定] > [オーディオ] または右クリック > [設定] > [オーディオ] を選択します。



#	項目	説明	関連情報の参照先
1	オーディオモード領域	<p>デバイスをオーディオモードに割り当てます。各オーディオモードに関連付けられているドロップダウンメニューに、現在利用可能なオーディオデバイスが表示されます。</p> <p>Cisco IP Communicator の起動前に取り付けたデバイスに応じて、利用可能なオーディオデバイスとして次のデバイスが表示されることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 受話器</li> <li>• スピーカフォン</li> <li>• USB ヘッドセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オーディオデバイスの取り付け (P. 6)</li> <li>• オーディオモードについて (P. 65)</li> <li>• ヘッドセットおよび他のオーディオデバイスの使用方法 (P. 73)</li> </ul>

#	項目	説明	関連情報の参照先
2	呼出音のデバイス	デバイスを呼出音に割り当てます。	オーディオデバイスの取り付け (P. 6)
3	ネットワーク ボタン	[ ネットワークオーディオ設定 ] ウィンドウを開きます。	ネットワーク オーディオ設定 (P. 68)
4	詳細ボタン	[ 詳細オーディオ設定 ] ウィンドウを開きません。	詳細オーディオ設定 (P. 69)
5	[ 低帯域幅のための最適化 ] チェックボックス	<p>リモート接続 (たとえば、自宅やホテルからの VPN 接続) で Cisco IP Communicator を使用している場合は、帯域幅が十分でないために音質が低下することがあります。リモート接続で Cisco IP Communicator を使用している場合は、[ 低帯域幅のための最適化 ] 機能を有効にすると、音声 that 不自然に聞こえるなどの問題を防止できます。</p> <p>この機能を有効にするには、Cisco IP Communicator インターフェイス上で右クリックし、[ 設定 ] &gt; [ オーディオ ] を選択します。</p> <p>低帯域幅を使用している場合は、オーディオフィルタを適用して音質を上げることもできます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 詳細オーディオ設定 (P. 69)</li> <li>• Cisco IP Communicator のトラブルシューティング (P. 90)</li> </ul>



(注) 上の図は、オーディオ設定の一例です。

#### 関連項目

- オーディオ モードについて (P. 65)
- ネットワーク オーディオ設定 (P. 68)
- 詳細オーディオ設定 (P. 69)

## オーディオモードについて

Cisco IP Communicator で使用する各オーディオ デバイスは、オーディオ モードに割り当てる必要があります。

- 受話器モード
- ヘッドセット モード
- スピーカフォン モード

着信コールを知らせる呼出音にも、デバイスを割り当てる必要があります。

オーディオ モードを選択すると、音声の入出力に使用するオーディオ デバイスを Cisco IP Communicator が識別します。


Cisco IP Communicator を初めて起動するときに、[オーディオ調整ウィザード] を使用してオーディオ デバイスをオーディオ モードに割り当てることができます。2 回目以降の起動では、Cisco IP Communicator 上で右クリックし、[設定]>[オーディオ]を選択することにより、オーディオ デバイスをモードに割り当てることができます。



### ヒント

アナログ オーディオ デバイスおよび USB オーディオ デバイスについては、P.6 の「オーディオ デバイスの取り付け」を参照してください。

### オーディオモードの選択に関するヒント





デフォルトでは、すべてのオーディオ モードと呼出音に同じオーディオ デバイスが選択されています。このデバイスは、たとえばサウンド カードです。利用可能なオーディオ デバイスが複数ある場合は、追加の設定オプションがあります。たとえば、USB ヘッドセットを取り付けている場合は、ヘッドセット モードにその USB ヘッドセットを選択し、 をクリックしてアクティブにすることができます。

デフォルトの設定をそのまま使用することも、カスタマイズすることもできます。設定をカスタマイズする場合は、次の推奨事項に従ってください。

- USB 受話器を使用する場合は、USB 受話器を受話器モードに割り当てます。
- USB ヘッドセットを使用する場合は、USB ヘッドセットをヘッドセット モードに割り当てます。
- USB スピーカフォンを使用する場合は、USB スピーカフォンをヘッドセット モードに割り当てます。
- アナログ ヘッドセットを使用する場合は、コンピュータのサウンド カードをヘッドセット モードに割り当てます。
- スピーカフォン モードとしてコンピュータのサウンド カードを選択します。

- コールの着信を知らせるデバイスに呼出音を割り当てます。ただし、サウンド カードに呼出音を割り当てて、コンピュータにアナログ ヘッドセットのプラグを差し込むと、ヘッドセットを着用しない限り呼出音が聞こえないことに注意してください。

### オーディオ モードをアクティブにする方法

- ヘッドセット モードをアクティブにするには、 をクリックします。スピーカフォン モードをアクティブにするには、 をクリックします。この操作により、各モードで選択したどのデバイスでもアクティブになります。
- デフォルトでは、ソフトキー、回線ボタン、および短縮ダイヤル ボタンをクリックすると、スピーカフォン モードがアクティブになります (USB 受話器が有効でない限り)。ヘッドセット モードをデフォルトのモードにする場合は、 をクリックし、[ 終了 ] をクリックします。 が点灯している間は、USB 受話器が有効でない限り、ヘッドセット モードがデフォルトのオーディオ モードとして機能します。
- 受話器モードをアクティブにするには、USB 受話器でオフフックにします (このデバイスが利用可能で、受話器モードに割り当てられている場合)。USB 受話器でオフフックにする方法は、受話器の設計によって異なります。必要に応じて、フックスイッチまたは「オン」ボタンを押します。
- コールが着信すると、呼出音がアクティブになります。



### ヒント

詳細については、P. 73 の「ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスの使用方法」を参照してください。

### オーディオ モード メニューでのオーディオ デバイスの表示

オーディオ モード メニューは、1 つまたは複数のオーディオ デバイスを含むドロップダウン メニューです (右クリック > [ 設定 ] > [ オーディオ ])。ここでは、このメニューに表示される項目について説明します。

- Cisco IP Communicator の起動時に 1 つのオーディオ デバイスしか取り付けられていない場合は、各メニューに 1 つのオーディオ デバイスが表示されます。
- 取り付けられているすべてのオーディオ デバイスがオーディオ モードメニューに表示されるわけではありません。表示されるデバイスは、ドライバを必要とするデバイス (USB 受話器、USB ヘッドセット、およびサウンドカード) です。
- コンピュータのオーディオ ジャックにプラグを差し込むアナログ オーディオ デバイスは、オーディオ モードメニューに表示されません。Cisco IP Communicator は、アナログ オーディオ デバイスとサウンドカードを区別しません。アナログ デバイスを選択するには、サウンドカードを選択します (アナログ オーディオ デバイスの取り付けまたは識別については、P. 6 の「オーディオ デバイスの取り付け」を参照してください)。

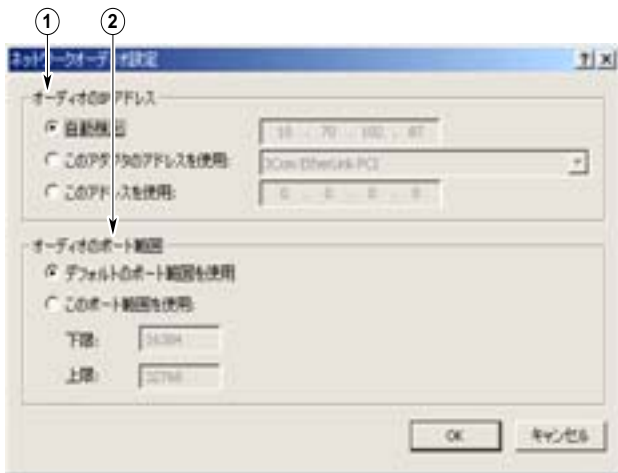
- 取り付けした USB オーディオ デバイスまたはサウンド カードがメニューに表示されない場合は、そのデバイスが装着されていることを確認し、Cisco IP Communicator を再起動します。  
Cisco IP Communicator は、アプリケーションの起動時に取り付け (プラグの差し込み) が完了しているオーディオ デバイスだけを認識します (USB オーディオ デバイスの取り付けまたは識別については、P. 6 の「オーディオ デバイスの取り付け」を参照してください)。

#### **関連項目**

- オーディオ調整ウィザードの使用方法 (P. 10)
- 設定の表示とカスタマイズ (P. 59)
- オーディオ デバイスの取り外しと再取り付け (P. 79)

## ネットワーク オーディオ設定

ネットワークオーディオの設定ウィンドウにアクセスするには、Alt+S > [オーディオ] > [ネットワーク] または右クリック > [設定] > [オーディオ] > [ネットワーク] を選択します。



#	項目	説明
1	オーディオ IP アドレス領域	この領域のデフォルト設定は、「自動検出」です。システム管理者から指示されない限り、この設定を変更しないでください。
2	オーディオのポート範囲領域	この領域のデフォルト設定は、「デフォルトのポート範囲を使用」です。システム管理者から指示されない限り、この設定を変更しないでください。

 (注) 上の図は、ネットワーク オーディオ設定の一例です。

### 関連項目

- オーディオ設定 (P. 63)
- 詳細オーディオ設定 (P. 69)
- Cisco IP Communicator のトラブルシューティング (P. 90)

## 詳細オーディオ設定

詳細オーディオ設定のウィンドウにアクセスするには、Alt+S > [オーディオ] > [詳細]、または右クリック > [設定] > [オーディオ] > [詳細] を選択します。



#	項目	説明	関連情報の参照先
1	モードメニュー	特に1つのオーディオモードに[発信]フィルタまたは[受信]フィルタを適用する場合は、このメニューを使用します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーディオモードについて (P. 65)</li> <li>ヘッドセットおよび他のオーディオデバイス使用方法 (P. 73)</li> </ul>

#	項目	説明	関連情報の参照先
2	フィルタ <ul style="list-style-type: none"> <li>• 発信</li> <li>• 受信</li> </ul>	<p>[ 発信 ] フィルタを適用すると、自分の声を変えることができます。[ 受信 ] フィルタを適用すると、通話相手の声を変えることができます。</p> <p>通常は、低帯域幅を有効にして ( [ 設定 ] &gt; [ オーディオ ] ) VPN 接続で Cisco IP Communicator を使用していない限り、フィルタを「なし」に設定します。低帯域幅を有効にしている場合は、フィルタを適用すると、自分の声または通話相手の声ははっきりと自然に聞こえます。</p> <p>コール中にフィルタを適用して試すことができます。[ 発信 ] フィルタの効果を評価するには、通話相手に自分の声がどのように聞こえるかを確認します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オーディオ設定 ( P. 63 )</li> <li>• Cisco IP Communicator のトラブルシューティング ( P. 90 )</li> </ul>
3	[ 音量制限 ] チェックボックス	社内ネットワーク以外からのコールが社内ネットワークからのコールよりも常に大きく聞こえる場合は、システム管理者からこの機能を有効にするように指示されることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オーディオ調整ウィザードの使用法 ( P. 10 )</li> <li>• コールの音量調節 ( P. 54 )</li> <li>• Cisco IP Communicator のトラブルシューティング ( P. 90 )</li> </ul>
4	OK ボタン	選択したオーディオ モードだけにフィルタ設定を適用します。	オーディオ モードについて ( P. 65 )
5	[ すべてに適用 ] ボタン	すべてのオーディオ モードにフィルタ設定を適用します。	オーディオ モードについて ( P. 65 )
6	[ 無音を抑制 ] チェックボックス	ネットワーク管理者から指示されない限り、[ 無音を抑制 ] を無効にしないでください。	

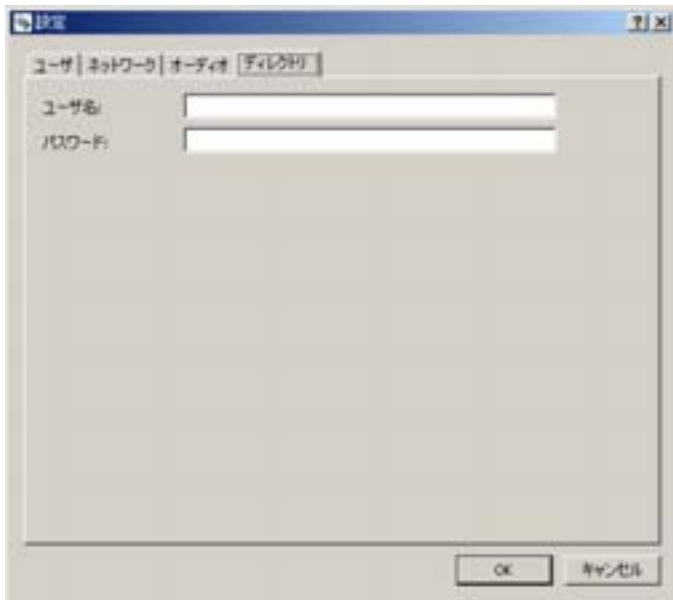
#	項目	説明	関連情報の参照先
7	音声の品質とパフォーマンス領域	<p>特定のオーディオ デバイス セット (USB ヘッドセット、USB 受話器、またはサウンドカード) に最適な待ち時間の設定をテストするには、ドロップダウン リストの遅延設定についてデバイスをテストします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最高 (遅延小)</li> <li>• 大変よい (遅延中)</li> <li>• よい (遅延大)</li> </ul> <p>テスト コールを発信し、音声の品質が発信側および受信側で良好であることを確認します。音声が歪む、欠落する、または機械的な音になる場合は、リストの次の項目を選択して、前の手順を繰り返します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オーディオ調整ウィザードの使用方法 (P. 10)</li> </ul>

#### 関連項目

- オーディオ設定 (P. 63)
- ネットワーク オーディオ設定 (P. 68)

## ディレクトリ設定

ディレクトリの設定ウィンドウにアクセスするには、Alt+S > [ディレクトリ]、または右クリック > [設定] > [ディレクトリ] を選択します。



クイック検索機能を使用して社内ディレクトリを検索する前に、必要に応じて[設定]ダイアログボックスの[ディレクトリ]ウィンドウにユーザ名とパスワードを入力します。まず、この情報を入力せずにクイック検索を使用します。クイック検索が応答しない場合は、自分のディレクトリ用のユーザ名とパスワードをシステム管理者に問い合せて、ここに入力します。

また、クイック検索を使用して個人アドレス帳を検索する場合は、このウィンドウにディレクトリのユーザ名とパスワードを指定する必要があります。詳細については、P. 85 の「クイック検索機能の使用方法」を参照してください。

### 関連項目

- 設定の概要 (P. 53)
- ユーザ設定 (P. 59)
- オーディオ設定 (P. 63)
- クイック検索用のパスワード情報の入力 (P. 85)

# ヘッドセットおよび他のオーディオデバイスの使用方法

---

この章では、Cisco IP Communicator のオーディオ モード ( 受話器モード、ヘッドセット モード、スピーカフォン モード ) で、受話器、ヘッドセット、コンピュータのスピーカやマイクロフォンなど、オーディオ デバイスを使用する方法について説明します。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- ヘッドセットの使用方法 ( P. 74 )
- スピーカフォンとしてのコンピュータの使用方法 ( P. 77 )
- USB 受話器の使用方法 ( P. 78 )
- オーディオ デバイスの取り外しと再取り付け ( P. 79 )
- オーディオ デバイスの取得 ( P. 80 )

## ヘッドセットの使用法

Cisco IP Communicator では、USB ヘッドセットまたはアナログ ヘッドセットを使用できます。

- USB ヘッドセットには、コンピュータの USB ポートに接続する平らな長方形のプラグが付属しています。















- アナログ ヘッドセットには、コンピュータのオーディオ ジャックに接続する丸いプラグが付属しています。



アナログ ヘッドセットは、コンピュータのサウンド カードと連携して動作するため、デバイス ドライバは不要です。

次の表に詳細を示します。

状況	操作
ヘッドセットを使用してコールを発信および受信する	<p> がアクティブで（点灯しており）、Cisco IP Communicator がヘッドセット モードで動作することを確認します。 をクリック、またはキーボードショートカット <b>Ctrl+H</b> を入力して、ヘッドセット モードのオン/オフを切り替えることができます。</p> <p>ヘッドセットをプライマリ オーディオ デバイスとして使用する場合は、 ではなく <b>[ 終了 ]</b> をクリックして電話を切断し、コールの終了後も  を点灯させておくことができます。 が点灯していない場合、Cisco IP Communicator はデフォルトのオーディオ モードとしてスピーカフォン モードを使用します。Cisco IP Communicator は、アクティブなモードを介して音声をルーティングすることにより、ソフトキー、短縮ダイヤル ボタン、およびその他の機能に反応します。</p> <p>ヘッドセットは、 や  など、Cisco IP Communicator 上のコントロールすべてと連動して使用できます。</p> <p> <b>(注)</b> アナログ ヘッドセットはスピーカフォン モードでも動作しますが、ヘッドセット モードで使用すると音質を向上させることができます。</p>
オーディオ デバイスとしてアナログヘッドセットだけを使用する	<p>上記のガイドラインに従います。また、ヘッドセットのプラグがコンピュータに差し込まれている場合は、呼出音がヘッドセットスピーカだけから聞こえることに注意してください。電話の呼出音を聞くには、ヘッドセットを着用している必要があります。</p>
ヘッドセットで自動応答を使用する	<p><b>[ 終了 ]</b> をクリックして電話を切り、 をアクティブな（点灯した）ままにします（必要に応じて、 を先にクリックします）。 が点灯している場合、Cisco IP Communicator はヘッドセットモードで動作します。</p>
コール中にヘッドセットに切り替える	<p> をクリックするか、またはキーボード ショートカット <b>Ctrl+H</b> を入力します。切り替える前に USB 受話器を使用していた場合は、USB 受話器をオフにするか、受け台に置くことができます。</p>



## ヒント

---

自動応答は特別な機能のため、大量の着信コールを受信、または他のユーザの代わりにコールを処理する場合は、システム管理者に設定を依頼します。自動応答が有効な場合、Cisco IP Communicator は自動的にコールに回答し、設定に応じてスピーカフォン モードまたはヘッドセット モードを介してそのコールをルーティングします。







---

## 関連項目

- 基本的なコール処理 ( P. 33 )
- オーディオ モードについて ( P. 65 )
- スピーカフォンとしてのコンピュータの使用方法 ( P. 77 )

# スピーカフォンとしてのコンピュータの使用法

コンピュータのサウンドカードを使用して、スピーカフォンモードでコールを発信および受信できます。次の表に詳細を示します。

目的	操作
コンピュータをスピーカフォンのように使用して、コールを発信および受信する	<p> が点灯しており、Cisco IP Communicator がスピーカフォンモードで動作することを確認します。他のモードとは異なり、スピーカフォンモードにはエコー消去機能が用意されています。</p> <p> をクリック、またはキーボードショートカット Ctrl+P を入力して、スピーカフォンモードのオン / オフを切り替えることができます。</p> <p>デフォルトでは、スピーカフォンモードがアクティブになっています。つまり、短縮ダイヤルボタンやソフトキーの使用など、コールの発信や応答のために実行する多くのアクションにより、スピーカフォンモードが自動的に開始されます。</p> <p> <b>(注)</b> コンピュータにアナログヘッドセットのプラグが差し込まれている場合、スピーカフォンモードではコンピュータのスピーカから音声は聞こえません。</p>
コール中にスピーカフォンに切り替える	<p> をクリック、またはキーボードショートカット Ctrl+P を入力します。切り替える前に受話器を使用していた場合は、受話器をオフにするか、受け台に置きます。</p>
コンピュータのスピーカを、着信コールを知らせる呼出音として使用する	<p>呼出音モードにサウンドカードが割り当てられていること、およびコンピュータのスピーカをミュートにしていないことを確認します。また、アナログヘッドセットのプラグをコンピュータに差し込んでいる場合、呼出音はヘッドセットスピーカからしか聞こえません。</p>
スピーカフォンモードで自動応答を使用する	<p> または  をクリックして、コールの発信、応答、終了、回線の開閉、または他のオーディオデバイスからスピーカフォンモードへの切り替えを行います。デフォルトではスピーカフォンモードがアクティブであるため、ヘッドセットモードの場合のように対応するボタンを点灯したままにしておく必要はありません。</p> <p>(自動応答は非標準の機能のため、システム管理者に設定を依頼します。)</p>

## 関連項目



- 基本的なコール処理 ( P. 33 )
- オーディオ モードについて ( P. 65 )
- ヘッドセットの使用法 ( P. 74 )
- USB 受話器の使用法 ( P. 78 )

## USB 受話器の使用法

Cisco IP Communicator では、USB 受話器を使用できます。次の表に詳細を示します。



**(注)** USB 受話器を受話器モードに割り当てる必要があります。この設定により、受話器がオンフック状態であるかオフフック状態であるかを Cisco IP Communicator が認識します。たとえば、USB 受話器を受け台に置くことによってコールを終了できます。この割り当ての詳細については、P. 65 の「オーディオ モードについて」を参照してください。

目的	操作
受話器を使用してコールを発信または終了する	USB 受話器を有効または無効にします。多くの受話器には、フックスイッチまたはオン / オフ ボタンがついています。受話器を「オフフック」にするには、受話器を取り上げるか有効にします。  USB 受話器は、  や  など、Cisco IP Communicator 上のコントロールすべてと連動して使用できます。
コール中に受話器に切り替える	受話器を取り上げます ( または有効にします ) 。

## 関連項目

- オーディオ デバイスの取り付け ( P. 6 )
- 基本的なコール処理 ( P. 33 )
- ヘッドセットの使用法 ( P. 74 )
- スピーカフォンとしてのコンピュータの使用法 ( P. 77 )
- オーディオ デバイスの取り外しと再取り付け ( P. 79 )

# オーディオデバイスの取り外しと再取り付け

ラップトップで Cisco IP Communicator を使用する場合は、場所を移動するため、オーディオ デバイスを取り外して再び取り付けることがあります。オーディオ デバイスを再び取り付けて使用する方法について、次の表に詳細を示します。

目的	操作
以前に調整した USB 受話器、USB ヘッドセット、またはサウンドカードを再び取り付ける	<ol style="list-style-type: none"><li>1. Cisco IP Communicator が動作していないときに、オーディオ デバイスを取り付けます (たとえば、USB 受話器のプラグを差し込みます)。</li><li>2. Cisco IP Communicator を起動します。</li><li>3. 取り付けしたデバイスを選択し、必要に応じて調整します ([オーディオ調整ウィザード] に手動でアクセスするには、Cisco IP Communicator インターフェイス上で右クリックし、[設定]&gt;[オーディオ]を選択します)。</li><li>4. 必要に応じて、デバイスを適切なオーディオ モードに割り当てます。P. 65 の「オーディオ モードについて」を参照してください。</li></ol>

## ヒント

- Cisco IP Communicator は、起動のたびに、前回のセッション中に使用したオーディオ デバイスが取り付けられているかどうかを確認します。デバイスが検出されない場合、Cisco IP Communicator は、そのデバイスを再び取り付けるように要求します。
- デバイスドライバが必要なオーディオ デバイス (USB 受話器、USB ヘッドセット、またはサウンドカード) を Cisco IP Communicator の起動後に取り付けても、Cisco IP Communicator は再起動までそのデバイスを認識しません。
- リモート接続で Cisco IP Communicator を使用している場合は、Cisco IP Communicator を起動する前に VPN 接続を確立します。

## 関連項目

- オーディオ デバイスの取り付け (P. 6)
- オーディオ調整ウィザードの使用法 (P. 10)

## オーディオ デバイスの取得

システム管理者からオーディオ デバイスを提供されることがあります。オーディオ デバイスを購入する場合は、サポートされているデバイスの最新のリストについてシステム管理者に問い合わせてください。

# ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用方法




---

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- ボイス メッセージへのアクセス (P. 82)
- 履歴およびディレクトリの使用方法 (P. 83)
- クイック検索機能の使用方法 (P. 85)



## ボイス メッセージへのアクセス


電話システムが使用するボイス メッセージ サービスは、会社によって決まります。このサービスの詳細については、付属のマニュアルを参照してください。ボイス メッセージ サービス機能の一般的な概要については、次の表を参照してください。


目的	操作
ボイス メッセージ サービスを設定し、カスタマイズする	 をクリックし、音声ガイドに従います。タッチスクリーンにメニューが表示された場合は、該当するメニュー項目を選択します。
新しいボイス メッセージの着信を確認する	IP Communicator で次のインジケータを確認します。 <ul style="list-style-type: none"><li>デフォルト スキン上の赤いランプの点灯</li><li>電話スクリーン上の点滅する封筒のアイコン  またはテキストメッセージ</li></ul>
ボイス メッセージを聞く、またはボイス メッセージ メニューにアクセスする	 をクリックします。このボタンを押すと、メッセージ サービスに自動ダイヤルされるか、または電話スクリーンにメニューが表示されます。この動作は、お使いのボイス メッセージ サービスによって異なります。
ボイス メッセージ システムにコールを送信する	<b>[即転送]</b> をクリックします。即転送機能により、コール（呼び出し中または保留状態のコールを含む）がボイス メッセージ システムに自動転送されます。発信者はボイス メッセージの内容を聞いて、メッセージを残すことができます。

## 履歴およびディレクトリの使用方法

Cisco IP Communicator は、コールに関する不在履歴、発信履歴、および着信履歴を管理します。ディレクトリボタンを使用すると、これらの履歴にアクセスできます。また、利用可能な場合は、社内ディレクトリにアクセスすることもできます。

目的	操作
履歴を表示する	 > [不在履歴] [発信履歴] または [着信履歴] を選択します。それぞれのログに最大 100 件のレコードを保存できます。
履歴からダイヤルする	<p>リストの項目を選択して、オフフックにします。レコードに表示された電話番号を編集(プレフィックスの追加や削除など)する必要がある場合は、[編集] を押します。次に、&lt;&lt;または&gt;&gt; を押して、数値を消去、またはカーソルを移動します。</p> <p>コールがアクティブなときに履歴からダイヤルする場合は、コールのレコードまでスクロールして [ダイヤル] をクリックするか、またはキーボードの Enter キーを押します。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [保留]: 最初のコールを保留にして、2 番目のコールをダイヤルします。</li><li>• [転送]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送し、自分のコールを終了します(操作を完了するには、ダイヤルした後で [転送] をもう一度押します)。</li><li>• [会議]: 自分とすべての通話相手との間で会議コールを作成します(操作を完了するには、ダイヤルした後で [会議] をもう一度押します)。</li><li>• [終了]: 最初のコールを切断して、2 番目のコールをダイヤルします。</li></ul>
履歴を削除する	 を選択してから、[クリア] を押します。この操作により、不在履歴、発信履歴、および着信履歴が削除されます。

目的	操作
社内ディレクトリからダイヤルする	<p> &gt; [シャナイディレクトリ] を選択します（名前は異なる場合があります）。キーボードで文字を入力して、リストを検索します。名前の一部でも検索できます。リストからダイヤルするには、その項目をクリックしてオフフックにします。</p> <p>コールがアクティブなときにディレクトリからダイヤルする場合は、リストまでスクロールして [ダイヤル] をクリックします。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [保留]: 最初のコールを保留にして、2番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [転送]: 最初の通話相手を2番目の通話相手に転送し、自分のコールを終了します（操作を完了するには、ダイヤルした後で [転送] をもう一度押します）。</li> <li>• [会議]: 自分とすべての通話相手との間で会議コールを作成します（操作を完了するには、ダイヤルした後で [会議] をもう一度押します）。</li> <li>• [終了]: 最初のコールを切断して、2番目のコールをダイヤルします。</li> </ul>

 (注) ネットワークがシャットダウン、またはリセットされると、履歴情報が消失する場合があります。

## クイック検索機能の使用法

クイック検索機能を使用すると、1つの検索コマンドで、1つまたは複数のディレクトリを検索できます。検索できるディレクトリは、複数の社内ディレクトリや個人アドレス帳ですが、システム管理者がクイック検索機能をどのように設定しているかによって異なります。

クイック検索機能にアクセスするには、Cisco IP Communicator 上で右クリックして[クイック検索]を選択、またはキーボードショートカット(Alt+K)を入力します。

[クイック検索]ウィンドウで名前または内線番号を入力し、[クイックダイヤル]または[検索]をクリックします。

- [クイックダイヤル]: 検索で1つのエントリが一致した場合、自動的にダイヤルします(この場合も、コールを発信するには、[ダイヤル]ソフトキーをクリックする必要があります)。検索で複数のエントリが一致した場合、それらのエントリが表示されます。
- [検索]: 番号を自動的にダイヤルせずに、検索結果を表示します。

検索結果からコールを発信するには、[クイック検索]ウィンドウでリスト項目をクリックし、Cisco IP Communicator 上の[ダイヤル]ソフトキーをクリックします。

詳細については、P. 85の「クイック検索用のパスワード情報の入力」を参照してください。

## クイック検索用のパスワード情報の入力

クイック検索機能の使用法に応じて、ユーザ名やパスワードなどの認証情報の入力が必要となる場合があります。

### 社内ディレクトリの検索

個人アドレス帳サービスを使用せず、クイック検索機能を使用して社内ディレクトリだけで同僚を検索する場合は、設定手順が不要な場合があります。右クリックメニューから[クイック検索]を選択、またはAlt+Kを入力することにより、これをテストします。

- [クイック検索]が開く場合は、何も設定する必要はありません。
- [クイック検索]が開かない場合は、[設定]ダイアログボックスの[ディレクトリ]ウィンドウ(右クリック>[設定]>[ディレクトリ])で、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。入力する値については、システム管理者に問い合せてください。

## 個人アドレス帳の検索

個人アドレス帳 (PAB) サービスを使用する場合は、クイック検索で最初に PAB を、次に社内ディレクトリを検索できます。ただし、クイック検索が PAB にアクセスするには、次の条件を満たしている必要があります。

- システム管理者により、クイック検索が個人ディレクトリと統合するように設定されている。
- Cisco Unified CallManager ユーザ オプション Web ページから PAB サービスに登録している。
- [ ユーザ ] ウィンドウ ([ 設定 ] > [ ユーザ ]) に Cisco Unified CallManager ユーザ名が表示される。
- ディレクトリ用のユーザ名とパスワード ([ 設定 ] > [ ディレクトリ ]) を入力した。

## その他の検索方法

クイック検索以外の検索方法を使用する場合は、次の手順を実行します。

- 社内ディレクトリを検索するには、 > [ シャナイディレクトリ ] (正確な名前は異なる場合があります) を選択します。
- 個人アドレス帳を検索するには、 > PAB service (正確な名前は異なる場合があります) を選択します。

検索情報を入力し、[ 検索 ] をクリックします。

## 関連項目

- Cisco IP Communicator を使用したコール処理 ( P. 33 )
- Cisco IP Communicator の設定のカスタマイズ ( P. 53 )
- 履歴およびディレクトリの使用方法 ( P. 83 )
- ユーザ オプション Web ページへのログイン ( P. 88 )

# ユーザ オプション Web ページへのアクセス

---

Cisco IP Communicator はネットワーク デバイスのため、社内の他のネットワーク デバイスと情報を共有することができます。この中には、自分のコンピュータやそこから Web ブラウザを使用してアクセスできる Web ベースのサービスも含まれます。

Cisco Unified CallManager ユーザ オプション Web ページを使用すると、コンピュータで電話機サービスの設定と、設定や機能の制御を行うことができます。Web ページで機能とサービスを設定しておく、電話機でアクセスできるようになります。



**(注)** ユーザ オプション Web ページにアクセスするには、最初に、[ 設定 ] ページの [ ユーザ ] 領域でユーザ名とパスワードを入力する必要があります。ユーザ名フィールドとパスワードフィールドにアクセスするには、Alt+S > [ ユーザ ] メニュー > [ 設定 ] > [ ユーザ ] または **右クリック** > [ 設定 ] > [ ユーザ ] を選択します。詳細については、P. 23 の「メニューの使用方法」を参照してください。

---

たとえば、Web ページで短縮ダイヤル ボタンを設定すると、電話機でアクセスできるようになります。

この項では、ユーザ オプション Web ページへのアクセス方法と、電話機サービスへの登録方法について説明します。設定可能な機能と、登録可能な電話機サービスの詳細については、『*Web での Cisco Unified IP Phone のカスタマイズ*』を参照してください。このガイドは次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c\\_ipphon/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm)

この章は、次の項で構成されています。

- ユーザ オプション Web ページへのログイン (P. 88)
- 電話サービスへの登録 (P. 89)

# ユーザ オプション Web ページへのログイン

## 手順

---

**ステップ 1** メニュー ボタンをクリックするか、Cisco IP Communicator インターフェイス上で右クリックし、**[ユーザ オプション]** を選択します。

**ステップ 2** システム管理者から提供されたユーザ ID とデフォルト パスワードを入力します。

**ステップ 3** 一般メニューのデバイスを選択するドロップダウン リストから、デバイス タイプを選択します。

選択後、そのデバイス タイプに適切なオプションを含む文脈依存メニューが表示されます (リストに該当のデバイス タイプが表示されない場合は、システム管理者に問い合わせてください)。

関連情報については、P. 89 の「電話サービスへの登録」を参照してください。

---

## ユーザ オプション ページをナビゲートするためのヒント

- メニュー ページからデバイスを選択すると、すべてのオプションが表示されます。
- 変更を適用して保存するには、**[アップデート]** をクリックします。
- 文脈依存メニューに戻るには、**[メニューに戻る]** をクリックします。
- **[ユーザ]** ページを終了するには、**[ログオフ]** をクリックします。

## 電話サービスへの登録



Cisco IP Communicator で登録制電話サービスにアクセスするには、ユーザ オプション Web ページからサービスに登録する必要があります (ログインについては、P. 88 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください)。

サービスには、次のようなものがあります。

- 株価、映画のリスト、天気予報などの Web ベースの情報
- 社内予定表や検索可能なディレクトリなどのネットワーク データ
- My Fast Dials や個人アドレス帳などの電話機能

利用可能なサービスは、システム管理者によって決定されます。

次の表に詳細を示します。

目的	ログインし、デバイス タイプを選択した後の操作
サービスに登録する	メイン メニューから、[ Cisco Unified IP Phone サービスの設定 ] を選択します。[ 使用可能なサービス ] ドロップダウン リストからサービスを選択し、[ 続行 ] をクリックします。要求に応じてさらに情報を入力し (郵便番号や PIN など) [ 登録 ] をクリックします。
登録内容を変更、または登録解除する	メイン メニューから、[ Cisco Unified IP Phone サービスの設定 ] を選択します。[ 登録されているサービス ] パネルで、サービスをクリックします。変更を加えた後 [ アップデート ] をクリックするか、または [ 登録解除 ] をクリックします。
サービスをプログラマブル ボタン  に追加する	サービスを登録した後、メイン メニューから [ サービス URL ボタンの追加または更新 ] を選択します。利用可能なボタンごとに、ドロップダウン リストからサービスを選択し、説明のテキストを入力します。変更が終わったら、[ 更新 ] をクリックします。サービスに利用可能なプログラマブルボタンの数は、システム管理者が決定します。また、電話機へのサービスボタンの割り当ても、システム管理者が行う場合があります。
Cisco IP Communicator のサービスにアクセスする	Cisco IP Communicator で  をクリックします。この操作によって、登録したサービス、またはシステム管理者が割り当てたサービスを使用できます。
電話機サービスの使用方法を確認する	『Web での Cisco Unified IP Phone のカスタマイズ』を参照してください。このガイドは次の URL から入手できます。 <a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a>

# Cisco IP Communicator のトラブルシューティング

---

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 一般的な問題のトラブルシューティング (P. 90)
- 音質の問題 (P. 94)



**(注)** Cisco IP Communicator で問題が発生した場合は、トラブルシューティングのために Error Reporting ツールを実行して関連データを取得できます。[スタート]>[すべてのプログラム]>Cisco IP Communicator を選択します。システム管理者にファイルを送信できるように、Error Reporting ツールがデータを保存する場所をメモします。

---

## 一般的な問題のトラブルシューティング

次の表は、Cisco IP Communicator で発生する可能性のある一般的な問題のトラブルシューティングに役立ちます。




**(注)** Microsoft Windows 2000 を実行しているコンピュータで Cisco IP Communicator を使用している場合は、[オーディオ調整ウィザード]を使用して現在アクティブなオーディオ デバイスのマイクロフォン レベルを調整することはできません。通話中でないとき、および別のアプリケーションがオーディオ デバイスを使用していないときを選んで調整してください (Windows XP ユーザはこの処理は必要ありません)。

---

問題	対応策	詳細情報の参照先
初めての起動後、内線番号が表示されず、ステータス行に[登録]と表示される	<p>必要に応じて、TFTP サーバを選択したことを確認します。TFTP アドレスが必要な場合は、システム管理者からそのアドレスが提供されます。</p> <p>リモート ユーザの場合は、Cisco IP Communicator を起動する前にネットワーク接続を確立したことを確認します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定作業と登録作業 (P. 12)</li> <li>ネットワーク設定 (P. 61)</li> </ul>
起動後、Cisco IP Communicator がネットワーク アダプタを検出できず、ネットワーク アダプタを再び装着するように要求する	<p>可能な場合は、検出されないネットワーク インターフェイス デバイスを取り替えます (たとえば、ワイヤレス カードや USB イーサネット アダプタを取り替えます)。</p> <p>ラップトップ上で Cisco IP Communicator を初めて起動したときにそのラップトップがドッキングステーションに接続されていた場合は、ドッキングを試して、問題が解決されるかどうか確認します。解決される場合は、システム管理者に問い合わせて、ドッキングステーションが接続されていない状態で Cisco IP Communicator が動作するようにデバイス名を設定します。</p> <p>選択したネットワーク アダプタを削除または無効にした場合は、新しいアダプタを選択する前にシステム管理者に問い合せます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定作業と登録作業 (P. 12)</li> <li>ネットワーク設定 (P. 61)</li> </ul>
オーディオ モードのドロップダウン メニューに、使用するオーディオ デバイスが表示されない	<p>デバイスが USB 受話器、USB ヘッドセット、またはサウンド カードである場合は、デバイスが正しく取り付けられていることを確認してから、Cisco IP Communicator を再起動します (起動後に取り付けられたデバイスは、次の起動まで認識されません)。</p> <p>デバイスがアナログ デバイスである場合、アナログ デバイスはサウンド カードの延長であるため、オーディオ モードに表示されません。代わりに、サウンド カードを選択します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーディオ デバイスの取り付け (P. 6)</li> <li>オーディオ モードについて (P. 65)</li> <li>オーディオ デバイスの取り外しと再取り付け (P. 79)</li> </ul>

問題	対応策	詳細情報の参照先
<p>起動後、Cisco IP Communicator に内線番号が表示されない、または間違った内線番号が表示される</p>	<p>システム管理者に問い合わせてください。</p> <p>間違ったネットワーク アダプタを選択した可能性があります。複数のアダプタがあり、Cisco IP Communicator のインストール直後に1つのアダプタを選択するよう要求された場合は、永続的な接続を提供する可能性の最も高いアダプタ、または常に有効であるアダプタを選択します（装着されていない場合でも）。システム管理者から、どのアダプタを選択すべきか指示されます。</p> <p>ネットワーク アダプタの設定により、Cisco IP Communicator がネットワークに識別されることに注意してください。この設定は、音声の転送には使用されません。そのため、選択したネットワーク アダプタを削除または無効にする場合を除き、確定後にこの設定を変更しないでください。変更する場合は、新しいアダプタを選択する前に、システム管理者に問い合わせてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定作業と登録作業 (P. 12)</li> <li>• ネットワーク設定 (P. 61)</li> </ul>
<p>クイック検索を起動しても、何も実行されない</p>	<p>右クリック &gt; [設定] &gt; [ディレクトリ] を選択し、ユーザ名とパスワードを入力します（使用するユーザ名とパスワードは、ネットワーク管理者から提供されます）。</p> <p>クイック検索機能を使用して個人アドレス帳を検索する場合は、右クリック &gt; [設定] &gt; [ユーザ] を選択し、ユーザ名を入力することも必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ディレクトリ設定 (P. 72)</li> <li>• クイック検索機能の使用方法 (P. 85)</li> </ul>

問題	対応策	詳細情報の参照先
電話の呼出音が聞こえない、または聞こえにくい	<p>アクティブなコールがないときに Cisco IP Communicator インターフェイス上で  をクリックして、呼出音の音量を調節します。</p> <p>USB 受話器を使用する場合は、呼出音を鳴らすデバイス(リンガー)として USB 受話器を選択しないでください。通常、リンガーにはサウンドカードを選択する必要があります。</p> <p>呼出音モードにサウンドカードが選択されており、ヘッドセットのプラグがコンピュータのオーディオジャックに差し込まれている場合は、アナログヘッドセットを着用しないと呼出音は聞こえません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーディオ デバイスの取り付け (P. 6)</li> <li>オーディオ モードについて (P. 65)</li> </ul>

#### 関連項目

- オーディオ調整ウィザードの使用法 (P. 10)
- 設定の概要 (P. 53)
- 音質の問題 (P. 94)

## 音質の問題


次の表は、Cisco IP Communicator で発生する可能性のある音質の問題のトラブルシューティングに役立ちます。



- (注) Microsoft Windows 2000 を実行しているコンピュータで Cisco IP Communicator を使用している場合は、[ オーディオ調整ウィザード ] を使用して現在アクティブなオーディオ デバイスのマイクレベルを調整することはできません。通話中でないとき、および別のアプリケーションがオーディオ デバイスを使用していないときを選んで調整してください (Windows XP ユーザはこの処理は必要ありません)。

### 始める前に

トラブルシューティングの表を使用する前に、次の点に注意してください。

- 音量に関連する問題の場合は、まず Cisco IP Communicator インターフェイスで  をクリックして音量を調節します。
- 何人か他の人に電話して、問題の原因が Cisco IP Communicator にあるのか、通話相手の電話機にあるのか確認します。問題が通話相手の電話機にあると思われる場合は、Cisco IP Communicator インターフェイスで音量を調節し、[ オーディオ調整ウィザード ] を使用して設定を修正するのは避けます (この修正が広い範囲に適用されない可能性があるため)。







- (注) トラブルシューティングに使用する詳細情報を取得するため、システム管理者からロギングを有効にするように要求されることがあります。ロギングを有効にするには、Alt+S > [ ユーザ ] メニュー > [ 設定 ] > [ ユーザ ] または右クリック > [ 設定 ] > [ ユーザ ] を選択し、[ ロギングを有効にする ] をクリックします。システム管理者にファイルを送信できるように、Error Reporting ツールがデータを保存する場所をメモします。



音量レベルに問題が生じた場合は、次のガイドラインに従います。


- 最初に、[ オーディオ調整ウィザード ] で、マスター音量スライダを調整します。この設定は、音声を再生するすべてのアプリケーションに影響するため、他のアプリケーション (Microsoft Windows Media Player や RealPlayer など) について設定をテストし、音量が適切であることを確認します。
- マスター音量を調整したら、[ オーディオ調整ウィザード ] で、Wave 音量スライダを通話に適した音量に調整します。

- 音量設定を Microsoft Windows から変更した場合は、[ オーディオ調整ウィザード ] を再度実行し、マスターおよび Wave 音量設定を再調整します（次のガイドラインに従います）。

問題	対応策
通話相手の声が大きすぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li> をクリックして音量を調節してみます。</li> <li>[ オーディオ調整ウィザード ] を起動して、現在のオーディオ デバイスのスピーカ音量を調節します。</li> </ul>
通話相手から、声が大きすぎると言われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッドセットを使用している場合は、マイクロフォンのブームを口からあごの方に少し移動します。</li> <li>これで問題が解決しない場合は、[ オーディオ調整ウィザード ] を起動して、現在のオーディオ デバイスのマイクロフォンの音量を下げます。</li> <li>それでも通話相手に聞こえる声が大きすぎる場合は、マイクロフォンブースト機能を無効にします（そのデバイスに対してこの機能が有効である場合）。この操作は、[ オーディオ調整ウィザード ] で実行します。</li> </ul>
通話相手の声が小さすぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li> をクリックして音量を調節します。</li> <li>[ オーディオ調整ウィザード ] を起動して、現在のオーディオ デバイスのスピーカ音量を調節します。</li> </ul>
通話相手から、声が小さすぎると言われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッドセットを使用している場合は、Cisco IP Communicator がスピーカフォン モードではなくヘッドセット モードで動作していることを確認します。 が点灯している場合は、ヘッドセット モードで動作しています。点灯していない場合は、クリックします。</li> <li>ヘッドセットを使用している場合は、マイクロフォンのブームが適切な位置にあることを確認します。</li> <li>これで問題が解決しない場合は、[ オーディオ調整ウィザード ] を起動して、現在のオーディオ デバイスのマイクロフォンの音量を上げます。独自のボリューム アジャスタを備えたオーディオ デバイス（ワイヤー上にボリューム コントロールを持つ USB ヘッドセットなど）の場合は、調整する前に、デバイス本体の音量レベルを最大値に設定します。</li> <li>それでも声が小さすぎる場合は、[ オーディオ調整ウィザード ] でそのオーディオ デバイスのマイクロフォンブースト機能を有効にします。</li> </ul>

問題	対応策
通話相手の声がこもっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco IP Communicator をリモートで使用しており、[ 低帯域幅のための最適化 ] 機能 ([ 設定 ] &gt; [ オーディオ ]) を有効にしている場合は、[ 受信 ] オーディオフィルタを適用します。P. 63 の「オーディオ設定」を参照してください。</li> <li>• Cisco IP Communicator をリモート接続で使用していない場合は、低帯域幅オプションを無効にします。</li> <li>• 可能な場合は、通話相手にマイクロフォンの音量を下げてもらいます。</li> </ul>
通話相手から、声がこもっていると 言われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [ オーディオ調整ウィザード ] を起動して、現在のオーディオデバイスのマイクロフォンの音量を調節します。</li> <li>• [ 低帯域幅のための最適化 ] 機能 ([ 設定 ] &gt; [ オーディオ ]) を有効にしている場合は、[ 発信 ] フィルタを適用し、自分の声がどのように聞こえるかを確認します。オーディオフィルタの適用については、P. 69 の「詳細オーディオ設定」を参照してください。低帯域幅の機能については、P. 63 の「オーディオ設定」を参照してください。</li> <li>• Cisco IP Communicator をリモート接続で使用していない場合は、低帯域幅オプションを無効にします。</li> </ul>
通話相手の声が遠い、または不自然である	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ヘッドセットを使用している場合は、Cisco IP Communicator がスピーカフォン モードではなくヘッドセット モードで動作していることを確認します。(  ボタンが点灯している必要があります )。</li> <li>• 低帯域幅で使用するためにオーディオ フィルタを有効にしている場合は、無効にしてみます ( ([ 設定 ] &gt; [ オーディオ ] &gt; [ 詳細 ] ) )。</li> </ul>
通話相手から、声が遠いまたは不自然であると言われる	<p>[ 低帯域幅のための最適化 ] 機能 ([ 設定 ] &gt; [ オーディオ ]) を有効にしている場合は、[ 発信 ] フィルタを適用し、自分の声がどのように聞こえるかを確認します。</p> <p>オーディオ フィルタの適用については、P. 69 の「詳細オーディオ設定」を参照してください。低帯域幅の機能については、P. 63 の「オーディオ設定」を参照してください。</p>

問題	対応策
通話相手の声に途切れやジッタが生じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 不要なアプリケーションをすべて閉じます。アプリケーションを起動してネットワークに負荷のかかるタスク(電子メール送信など)を実行すると、音質が低下する可能性があります。</li> <li>• スピーカフォンを使用していないことを確認します。</li> <li>• 別のオーディオ設定を選択する場合は、[設定]&gt;[オーディオ]&gt;[詳細]に移動して、[音声の品質]設定を変更します。</li> <li>• リモート接続(たとえば、自宅やホテルからの VPN 接続)で Cisco IP Communicator を使用している場合は、帯域幅が十分でないために音質が低下していることが考えられます。Cisco IP Communicator インターフェイス上で右クリックし、[設定]&gt;[オーディオ]を選択して、[低帯域幅のための最適化]機能を有効にします。</li> <li>• サウンドカードおよびオーディオデバイスが正しく取り付けられていることを確認します。</li> </ul> <p> (注) ネットワークで輻輳やデータトラフィックの問題が発生している場合は、時々ポンという音やカチツという音が聞こえたり、音声途切れることがあります。</p>
エコーが聞こえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 可能な場合は、通話相手にマイクロフォンまたはスピーカの音量を下げてもらいます。</li> <li>• 通話相手がスピーカフォンモードで Cisco IP Communicator を使用している場合は、通話相手に  ボタンが点灯していることを確認してもらいます。</li> <li>• サウンドカードがマイクロフォンからスピーカに音声をフィードバックしていないことを確認します。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システムトレイにあるマイクロフォンのアイコン上で右クリックし、[ボリュームコントロールを開く]を選択します。</li> <li>2. [オプション]&gt;[プロパティ]&gt;[再生]を選択し、ウィンドウの下部にあるすべてのチェックボックスがオンであることを確認してから、[OK]をクリックします。</li> <li>3. [ボリュームコントロール]ウィンドウの[マイク]列で、[ミュート]が選択されていることを確認します。</li> </ol> </li> </ul>

問題	対応策
通話相手にエコーが聞こえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [オーディオ調整ウィザード] を起動して、現在のオーディオデバイスのマイクロフォンの音量を下げます。</li> <li>• コンピュータをスピーカフォンとして使用している場合は、 ボタンを点灯したままにします。</li> <li>• 最後の手段として、オーディオデバイスを変更します。</li> </ul>
通話相手に自分の声がまったく聞こえない(ただし、通話相手の声は聞こえる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ヘッドセットのワイヤー上または USB 受話器上のコントロールからミュートを有効にしているかどうか確認します。</li> <li>• スピーカおよびマイクロフォンのプラグがコンピュータの正しいオーディオジャックに差し込まれていることを確認します。</li> <li>• サウンドレコーダや他のソフトウェアベースの電話など、別のアプリケーションがマイクロフォンを使用していないことを確認します。</li> </ul>
通話相手には自分の声が聞こえるが、自分には何も音声は聞こえない	スピーカおよびマイクロフォンのプラグがコンピュータの正しいオーディオジャックに差し込まれていることを確認します。
同時に話すことができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全二重のサウンドカードを使用していることを確認します。</li> <li>• スピーカフォンモードになっていないことを確認します。</li> </ul>
音声は何も聞こえず、ダイヤルトーンも聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ドッキングステーションを使用しており、オーディオデバイスのプラグがドッキングステーションに差し込まれている場合は、コンピュータもドッキングステーションに接続されていることを確認します。</li> <li>• Cisco IP Communicator を再起動します。</li> </ul>

## 関連項目

- オーディオ調整ウィザードの使用方法 (P. 10)
- 設定の概要 (P. 53)
- 一般的な問題のトラブルシューティング (P. 90)



# Index

---

## C

### Cisco IP Communicator

- VPN での 64
- アップデート 9
- インストール 8
- 起動 9
- 設定 12
- ソフトウェアのバージョン情報 24
- テスト 14
- ~の機能 2, 15
- ~の図 16

### Cisco IP Phone

- ~の機能設定 32

## E

- Error Reporting ツール、使用方法 90

## M

- Meet-Me 会議 48, 51

## T

- TAPS、使用方法 12
- TFTP サーバ  
設定 62

- 選択 12, 62

## W

- WebDialer 36

## あ

- アイコン、コール状態の 27
- アップデート、Cisco IP Communicator 9
- アドレス帳
  - ~からのダイヤル 37
  - ~用のユーザ名とパスワード 60, 72, 86

## い

- 一方向の音声の問題 98
- インストール
  - Cisco IP Communicator 8
  - ~後のテスト 14
  - オーディオ デバイス 6, 79
  - 要件 3
  - ~用のチェックリスト 5
- インターフェイス
  - 終了する（閉じる）
    - ~のための手順 24
  - スクリーンのみを表示 23
  - ナビゲート 22

～の図	16	オーディオ設定ウィンドウ、使用方法	63
～用の常に手前機能	23	オーディオ設定の確認ウィンドウ、使用方法	10
え		オーディオ調整ウィザード	
エコーの問題	97	Microsoft Windows 2000 での	90
エラー メッセージ、トラブルシューティング	90	アクセス	10
エラーログ、有効化	60	およびオーディオ設定の確認ウィンドウ	10
お		～の説明	10
オーディオ IP アドレス、設定	68	オーディオのポート範囲、設定	68
オーディオ デバイス		オフフック	
インストール	6, 79	USB 受話器での	66
オーディオ モード用	63	応答での	39
音量、コール中	54	ダイヤルでの	34
購入	80	電話を切断	41
サポートされている種類	6	～の説明	28
使用方法	73	音質、トラブルシューティング	94
選択と調整	10	音声がかえらない	98
取り外しと再取り付け	79	音声の途切れ	97
表示	66	オンフック	
呼出音モード用	63	ダイヤル	34
オーディオ デバイスの再取り付け	79	ダイヤルでの	34
オーディオ デバイスの取り外し	79	～の説明	28
オーディオ モード		音量	
アクティブ化	66	オーディオ調整ウィザードでの調節	10
設定	63	コールの	54
説明	65	トラブルシューティング	94
選択に関するヒント	65	保存	54
～に対するデバイスの選択	63	ボタン、識別	19
～のメニューのトラブルシューティング	91	呼出音の	54
メニューについて	66	音量制限の設定	70
オーディオ設定、変更	10, 53	か	
		会議コール	
		Meet-Me	48, 51

- 標準 48, 49
- 回線
  - 起動時に間違っているまたは表示されない 92
  - 共有、使用方法 52
    - ～での割り込みの使用方法 52
    - ～のコール転送 45
    - ～の説明 27
  - 複数の使用方法 44
    - ～用のボタンの識別 18
- 画面のみの表示 23
- き
- キーパッド
  - ～でテキストを入力 31
- キーボードショートカット、使用方法 22
- 起動
  - Cisco IP Communicator 9
    - ～後のアップデート 9
    - ～後の設定作業 12
  - およびオーディオ設定の確認ウィンドウ 10
  - およびオーディオ調整ウィザード 10
  - およびラップトップドッキングステーション 9
    - トラブルシューティング 90
- 機能、～のアクセシビリティ 32
- 機能メニュー 30
- 共有回線
  - ～の説明 52
  - 割り込みでの 52
- く
- クイック検索
  - 使用方法 85
    - トラブルシューティング 92
      - ～用のパスワード 72
- クイックダイヤル、使用方法 85
- グループコールピックアップ、使用方法 47
- け
- 検索
  - ～用のパスワード 85
- こ
- コール
  - 一時的な保留と応答 46
    - ～上の複数の通話者 48
  - 応答 39
  - 回線ごとの最大数 27
  - 回線との比較 27
  - 終了 41
  - 選択 28
  - 転送 43, 45
    - トラブルシューティング 94
      - ～のアイコン 27
      - ～の音量 54
      - ～の会議機能 48
  - パーク 46
  - 発信 34
  - 表示 29, 44
  - 複数の処理 29, 44
  - 保留と復帰 42

ミュート	42
呼出中のリダイレクト	40, 47
コールパーク、使用方法	46
コールピックアップ、使用方法	47
コール処理、基本的な	33
コール処理、高度な	46
コール転送、使用方法	45
コール転送、～用のオプション	45
コールの切り替え	29
コールの選択	28
コールバック	38
コールへの応答、～用のオプション	39
個人アドレス帳	
～用のユーザ名とパスワード	86

## さ

サービス	
～への登録	89
ボタン、識別	18
サウンドカード、スピーカフォンモードでの使用方法	77

## し

自動アップデート、使用方法	9
自動応答	
使用方法、概要	40
スピーカフォンモードでの使用方法	77
説明	76
ヘッドセットモードでの使用方法	75
自動ダイヤル	34
自動ダイヤル、説明	34

社内ディレクトリ	
Web ページからダイヤル	36
電話機で使用方法	36
受話器	
インストール	6
購入	80
使用方法	78
受話器モード	
アクティブ化	66
使用方法	37, 78
～用のオーディオデバイスの選択	63
詳細オーディオ設定ウィンドウ、使用方法	69
ショートカット、キーボード	22

## す

スキン	
～の図	16
～のボタン	20
変更	23
スピーカボタン、識別	19
スピーカフォン、使用方法	77
スピーカフォンモード	
アクティブ化	66
使用方法	37, 77
～用のオーディオデバイスの選択	63

## せ

設定	
オーディオウィンドウ	63
オーディオ設定	63
詳細オーディオ設定ウィンドウ	69
詳細なオーディオ設定	69

- ダイアログボックス、アクセス 59
- ディレクトリ ウィンドウ 72
- ディレクトリ設定 72
- ネットワーク オーディオ ウィンドウ 68
- ネットワーク オーディオ設定 68
- ネットワーク設定 61
- ネットワーク設定ウィンドウ 61
- ~の概要 53
- ボタン、識別 18
- ユーザ ウィンドウ 59
- ユーザ設定 59
- 設定、~用のチェックリスト 5
  
- そ
- ソフトキー、~について 19
  
- た
- ダイヤル
  - ~用のオプション 34
- ダイヤルパッド、識別 19
- タッチスクリーン
  - 項目の選択 30
- 短縮ダイヤル
  - 使用方法 35
  - ボタン、識別 18
  - ボタン、設定 57
  
- ち
- チェックリスト、インストール用 5
- 着信履歴、レコード 83
- 調整、オーディオ デバイス 10
  
- つ
- 常に手前機能 23
  
- て
- 低帯域幅
  - ~に関するトラブルシューティング 97
  - フィルタでの 70
  - 有効化 64
- 低帯域幅のための最適化設定 64
- ディレクトリ
  - Web ページからダイヤル 36
  - 電話機での使用方法 36, 83
  - ボタン、識別 18
- ディレクトリ設定ウィンドウ、使用方法 72
- テキスト、電話機で入力 31
- テスト、インストール後 14
- デバイス名
  - 確認 12
  - トラブルシューティング 92
  - ~の設定 62
- 転送、~用のオプション 43
- 電話回線
  - ~の説明 27
- 電話スクリーン
  - イメージのカスタマイズ 56
  - ~上の複数のコールの表示 44
  - 識別 17
- 電話を切断
  - 複数の回線で 41
  - ~用のオプション 41

と		
登録		
TAPS での	12	
トラブルシューティング	90	
~に関連する作業	12	
ドッキングステーション、および初めての起動	9	
トラブルシューティング		
一般的な	90	
エラーメッセージ	90	
起動時	90	
~のための Error Reporting ツールの使用方法	90	
~のためのロギングの有効化	60	
な		
ナビゲーションボタン	19	
ね		
ネットワークアダプタ		
設定	62	
選択	12	
トラブルシューティング	92	
ネットワークオーディオ設定ウィンドウ、使用方法	68	
ネットワーク設定ウィンドウ、使用方法	61	
は		
バージョン情報のウィンドウ、アクセス	24	
ハードウェア、要件	3	
背景、変更	56	
パスワード設定		
ディレクトリウィンドウの	72	
ユーザウィンドウ用	60	
発信履歴、レコード	83	
ふ		
ファーストダイヤルサービス		
~でのダイヤル	37	
~への登録	89	
フィルタ		
適用	70	
~に関するトラブルシューティング	96	
複数のコール、処理	29	
不在履歴、レコード	83	
復帰ソフトキー、使用方法	42	
プラットフォーム、要件	3	
プレダイヤル	28, 34	
へ		
ヘッドセット		
インストール	6	
購入	80	
コールを発信	36	
種類	74	
使用方法	74	
~で電話を切断	41	
~でのコールへの応答	39	
ボタン、識別	19	
ヘッドセットモード		
アクティブ化	66	
使用方法	75	
~用のオーディオデバイスの選択	63	

- ヘルプ
  - ～用のボタン 18
- ほ
- ボイス メッセージ インジケータ 82
  - 識別 19, 55
- ボイス メッセージ サービス 82
- 保留
  - およびコール間の切り替え 44
  - ～およびコールの切り替え 29
  - 会議コールで 42
  - 使用方法 42
  - ～の表示 42
- み
- 右クリック メニュー、説明 23
- ミュート
  - およびオーディオ設定の確認ウィンドウ 43
  - 使用方法 42
  - ボタン、識別 19
- め
- メッセージ
  - ～のインジケータ 19, 55, 82
  - ボタン、識別 18
  - ～を聞く 82
- メニュー、使用方法 30
- ゆ
- ユーザ オプション Web ページ
  - アクセス 87
  - サービス用 89
  - ～用のユーザ名とパスワード 60, 88
- ユーザ設定ウィンドウ、使用方法 59
- ユーザ名の設定
  - クイック検索用 85
  - ユーザウィンドウ用 60, 72
- よ
- 要件、インストール用 3
- 呼出音
  - トラブルシューティング 93
  - ～に対するデバイスの選択 63
  - ～のインジケータ 19, 55
  - ～の音量調節 54
- 呼出音、変更 55
- ら
- ラップトップ、および初めての起動 9
- り
- リダイヤル 35
- 履歴
  - ～からのダイヤル 34
  - 消去 83
  - 表示してダイヤル 83

ろ

ロギングの有効化、設定 60

わ

ワイヤレス カード、選択されているアダプタとして  
91

割り込み、使用方法 52

---

**Cisco Systems has more than 200 offices in the following countries. Addresses, phone numbers, and fax numbers are listed on the Cisco Website at [www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices)**

Argentina • Australia • Austria • Belgium • Brazil • Bulgaria • Canada • Chile • China PRC • Colombia • Costa Rica • Croatia • Cyprus • Czech Republic • Denmark • Dubai, UAE • Finland • France • Germany • Greece • Hong Kong SAR • Hungary • India • Indonesia • Ireland • Israel • Italy • Japan • Korea • Luxembourg • Malaysia • Mexico • The Netherlands • New Zealand • Norway • Peru • Philippines • Poland • Portugal • Puerto Rico • Romania • Russia • Saudi Arabia • Scotland • Singapore • Slovakia • Slovenia • South Africa • Spain • Sweden • Switzerland • Taiwan • Thailand • Turkey • Ukraine • United Kingdom • United States • Venezuela • Vietnam • Zimbabwe

CCSP, CCVP, Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar, Aironet, ASIST, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity, Empowering the Internet Generation, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networkers のロゴ、Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StrataView Plus, TeleRouter, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Copyright © 2005, Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。



Java ロゴは、米国または一部の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501